

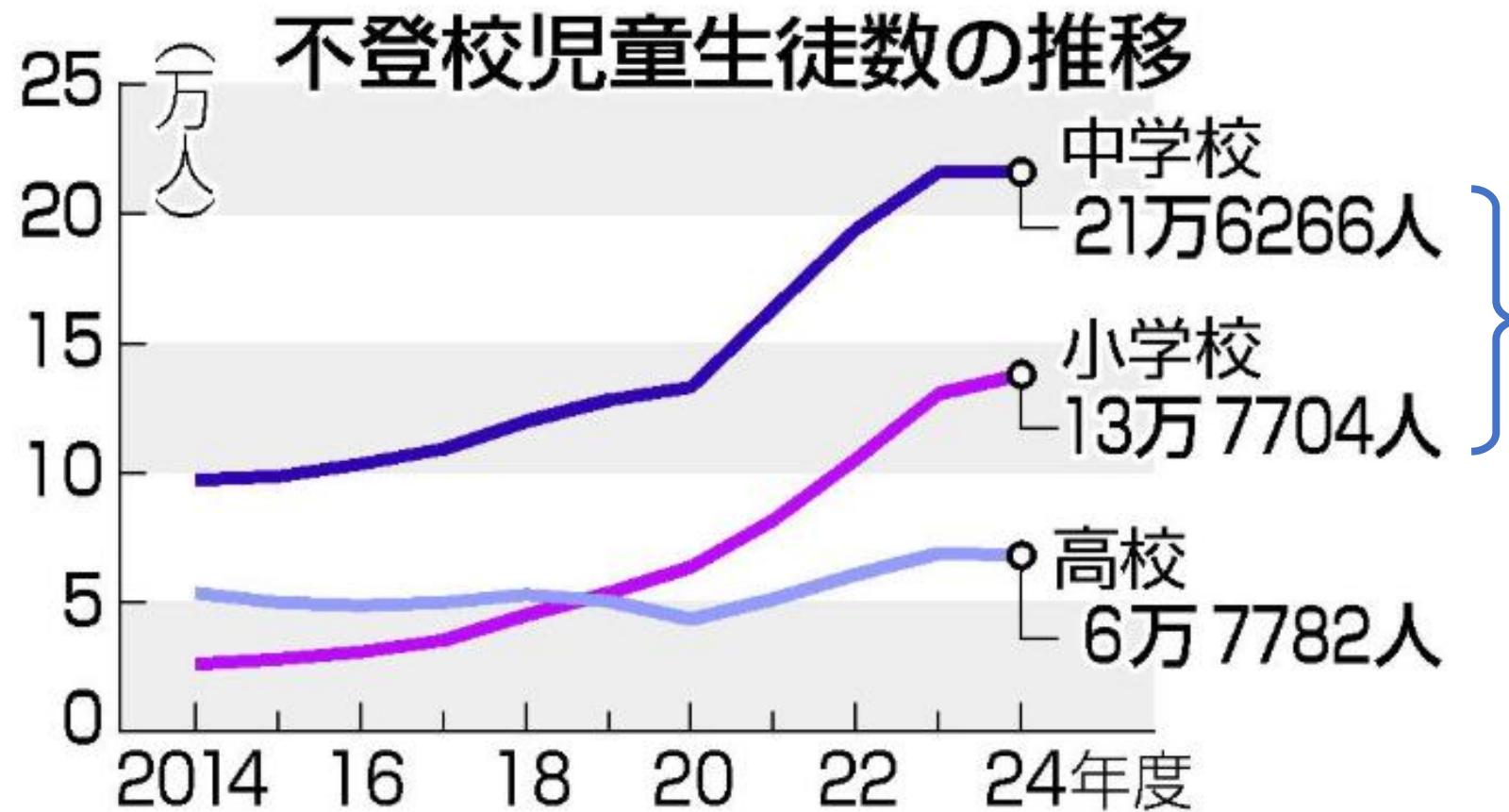
令和7年度

児童生徒の不登校対策に関する研究

盛岡市教育研究所

専門研究員 阿 部 真 一

全国の不登校児童生徒数の推移



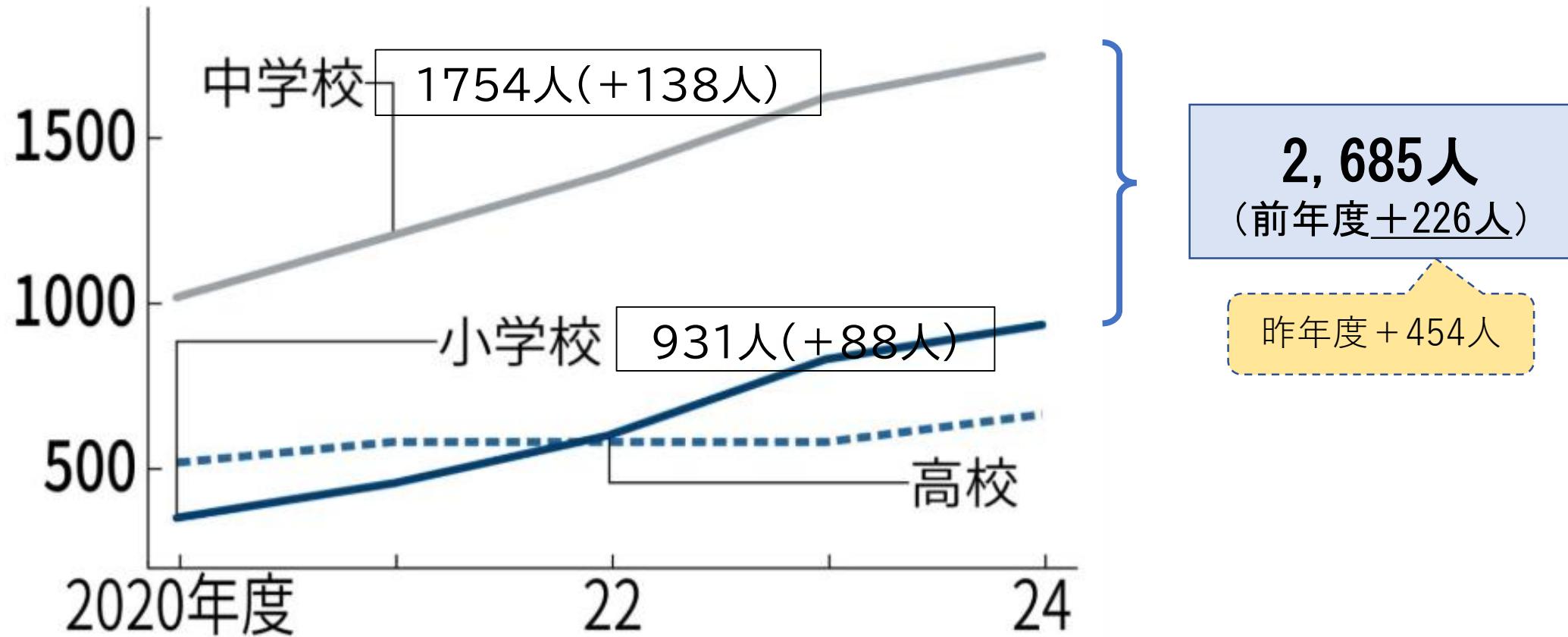
35万3970人
(前年度 + 7488人)

昨年度 + 4万7434人

文部科学省「24年度問題行動・不登校調査」より

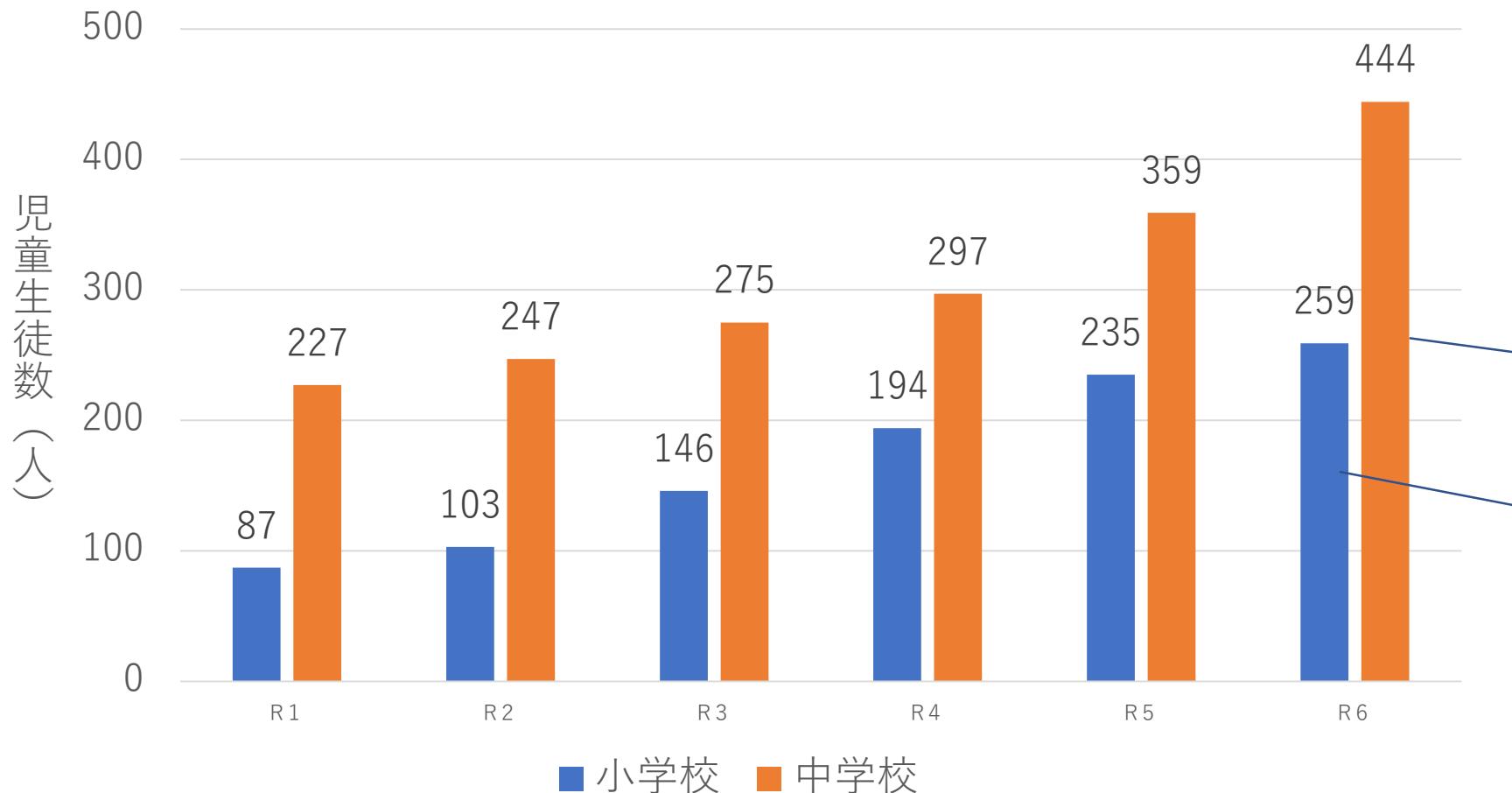
岩手県の不登校児童生徒数の推移

人 県内の不登校児童生徒数



盛岡市の不登校児童生徒数の推移

盛岡市の不登校児童生徒数の推移



盛岡市の学校教育

令和
7年度

盛岡市の学校教育

学校教育
目標

子どもたち一人一人に、自立して社会で
生きていくための資質・能力を育む

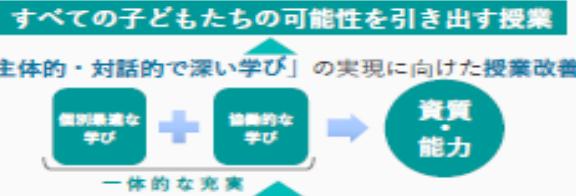
多くの先人が育んできた美しいふるさと盛岡を愛し
豊かな心とすこやかな体を持ち
元気で、笑顔で、学びの力で未来を創る

盛岡市

確かな学力の育成

学力向上推進事業

R6全国学力・学習状況調査平均正答率(全国比)				
	小6	中3		
	盛岡市	全国	盛岡市	
国語	72 (106)	67.7	60 (103)	58.1
算数	63 (99)	63.4	52 (99)	52.5
数学	40	(88)	45.6	
英語				



教育DX

重 GIGA端末やAI型ドリル等の活用
情報活用能力の育成

重 盛岡市5か条のスマホルール
子どもたちや保護者への情報モラルの啓発

重 統合型校務支援システムの活用
業務の軽減と効率化、質の向上

クラウドサービスの積極的な活用
保護者への調査・アンケート等

ひろばモリーオ、SSR等での活用
誰一人取り残さない学びの保障

コミュニティ・スクール

学校運営協議会設置に向けた取組
35校、30協議会設置込み(令和7年2月現在)

設置予定の学校への支援(出前講座等)
各CSの取組を学校間で共有

教育振興運動

第12次5か年計画(最終年度)

体験活動への
参加促進
読書活動の
習慣化
情報メディア
との共生
地域に根ざした実践活動の継続と充実

教育振興運動を土台とした
地域学校協働活動の充実

先人教育

第3期 推進計画 (初年度)

小・中学校の
学びのつながりの充実

キャリア教育の視点
【自己の在り方や生き方】

先人教育全体計画に
基づく各学校的取組
研究指定校の実践

夢
誇り
志
を育む

キャリア教育

盛岡市キャリア教育 推進協議会

学習記録の小中の引継
組織的・系統的な指導

地元産業界や関係機関
との連携

子どもたち一人一人の
社会的・職業的自立に
向け、望ましい勤労観や
職業観など、基盤となる
資質・能力

誰一人取り残さない教育の推進

不登校対策

盛岡市不登校児童生徒支援プラン

不登校対策委員会	不登校対策本部 (教育委員会)	不登校対策チーム (教育委員会)
安心して学べる 学校づくり 重 学校風土の「見える化」	組織的な 初期対応	社会的自立に 向けた支援

不登校対策相談員、SA
SC、SSW、関係機関
との連携

重 校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム等：
SSR)の充実 小学校33校、中学校22校設置(令和7年2月現在)

新 教育支援センター「ひろばモリーオ」のセンター機能
の充実 → SSR等へのアウトリーチ型支援(左図)

新 「ひろばモリーオ」サテライト分室の設置
→ 公民館等の社会教育施設を活用

相談体制の充実
教育相談室(来室、電話、メール)、個別相談会(年3回)



いじめ対策

市及び学校のいじめ防止基本方針

重 学校風土の「見える化」 構造的認知、適切な対応

盛岡市
いじめ問題
対策連絡協議会
いじめ問題
対策チーム
(教育委員会)
子ども家庭センター
こども相談室
【連携】

いじめ防止等に向けた体制整備の一層の充実

特別支援教育

盛岡市教育支援 委員会	特別支援 教育チーム	盛岡市障がい児 教育推進協議会
----------------	---------------	--------------------

特別支援教育Co.を中心とした体制の充実
個別の教育支援計画を基にした関係機関との連携

SAや学校看護師の配置による安心な学校生活
児童生徒一人一人のニーズに応じた支援

幼児教育

盛岡市幼保小接続カリキュラム

小学校教員との
合同研修会

生涯にわたる
人格形成の基礎
小学校教育への円滑な接続

復興教育

「いわての復興教育」 プログラム

様々な災害想定の取組
家庭・地域との協働

自他の命を守り抜く力
「共助」の精神
防災意識の向上

安全対策

SGLによる不審者等の 注意喚起を含めた巡回指導

学校安全ボランティアの取組
通学路安全点検による連携

通学路の安全確保

体力向上

運動の楽しさを体感する 授業づくり

運動する機会
の確保

生涯にわたって
運動を楽しむ態度の育成
60(ロクマル)
プラスプロジェクト

市立高等学校

第三次高校教育改革基本方針

DXハイスクール構築
デジタル人材
の育成

学力向上
進路指導
の充実
部活動
キャリア教育
市立高校の魅力づくり

学校風土の「見える化」とは

◎学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

(令和5年3月「COCOLOプラン」文部科学省)

- 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善
- いじめ等の問題行動に対しては毅然とした対応を徹底
- 児童生徒が主体的に参加した校則等の見直しの推進
- 快適で温かみのある学校としての環境整備
- 障害や国籍言語等の違いに 関わらず、色々な個性や意見を認め合う共生社会を学ぶ場に

「校内教育支援センター」とは

〈文部科学省〉

- 学校に行けるけれど自分のクラスに入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部屋のことです。児童生徒のペースに合わせて相談に乗ってくれたり学習のサポートをしてくれたりします。

(「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLOプラン」 P12 『関連の用語』より)

〈盛岡市教育委員会〉

- 不登校児童生徒等の支援のため、学習・生活環境や支援体制が整っており、常時又は適宜開室している「教室以外の場所」、又は、保健室等、本来は別の用途がある場所において、教職員等から受容・共感を中心とした支援が受けられる「ひと休みの場所」として、校内において共通認識されている部屋を「校内教育支援センター」と捉えます。

課題予防的生徒指導



目的	取組の対象	主たる取組	2つの「チーム学校」
A 新規数を抑制する	①前年度不登校ではなかった児童生徒全員	集団指導 (ガイダンス)	未然防止 (発達支持的生徒指導) (課題未然防止教育)
②上記のうち兆しの見えた児童生徒		個別支援 (カウンセリング)	教員の同僚性をいかした「チーム学校」
B 繼続数を減少させる	③前年度不登校であった児童生徒	個別支援 (自立支援)	教員に加え、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、適応指導教室関係者等 多職種による「チーム学校」

初期対応
事後対応

図2 生徒指導の重層的支援構造

令和7年度の研究内容

盛岡市の学校教育

「誰一人取り残さない教育の推進」

重点

学校風土の「見える化」
「校内教育支援センター」の充実

文科省の生徒指導提要

- 「課題解決的生徒指導」
- 「課題予防的生徒指導」
- 「発達支持的生徒指導」

令和7年度の研究内容

1. 市内小・中学校における「不登校予防の取組」について
2. 市内小・中学校における「校内教育支援センターの現状」について
3. 年間150日以上欠席の児童生徒への効果的支援の事例について

学校アンケート調査
(6月調査：悉皆)

学校訪問調査
(アウトリーチ型支援)

中学生アンケート調査
(10月調査：抽出)

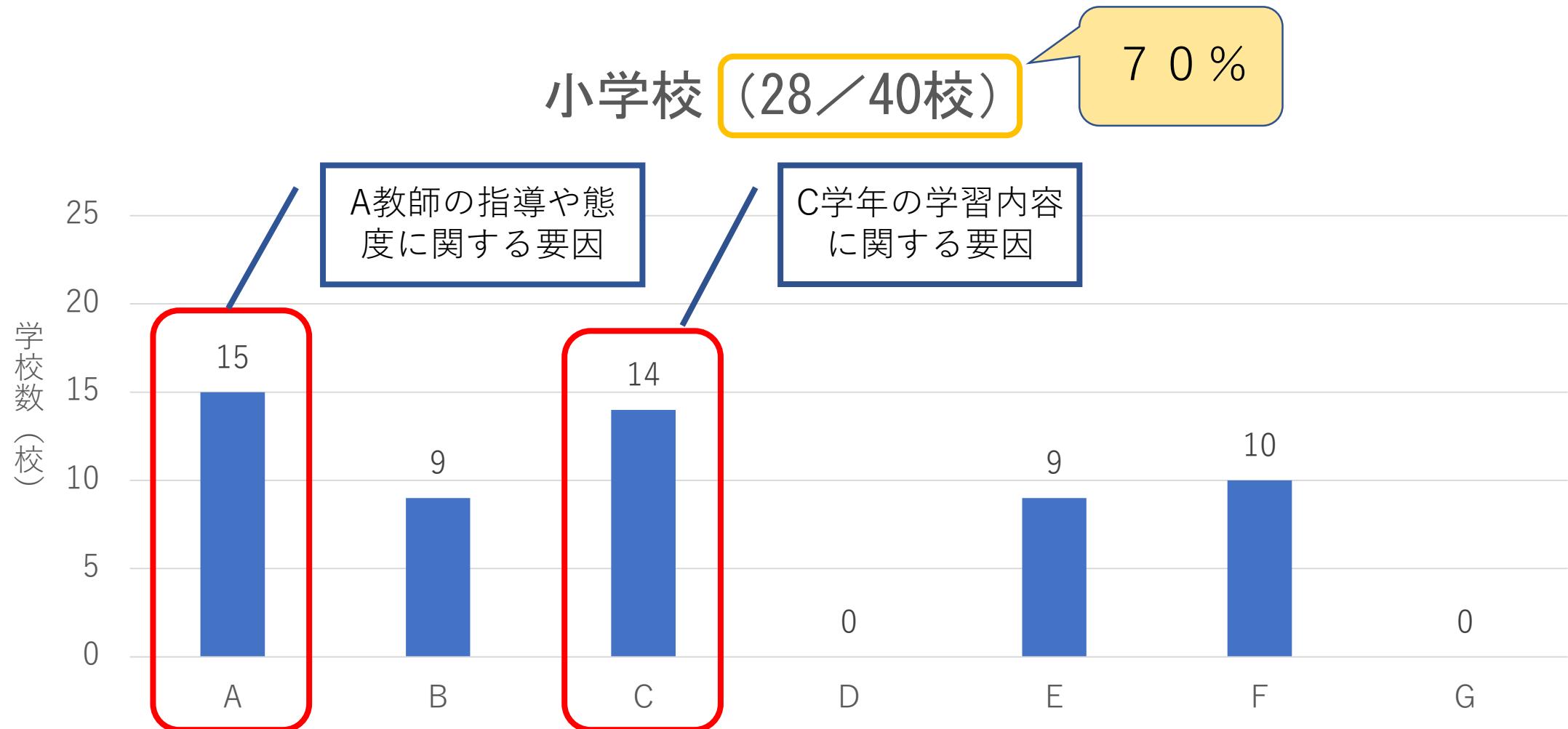
学校アンケート調査の結果

- ・内容…①「不登校予防の取組」について
②「校内教育支援センターの現状」について
③「150日以上欠席の児童生徒への効果的な支援」について
- ・対象…市内小・中学校（小学校40校、中学校22校）
- ・時期…6月～7月
- ・方法…質問紙

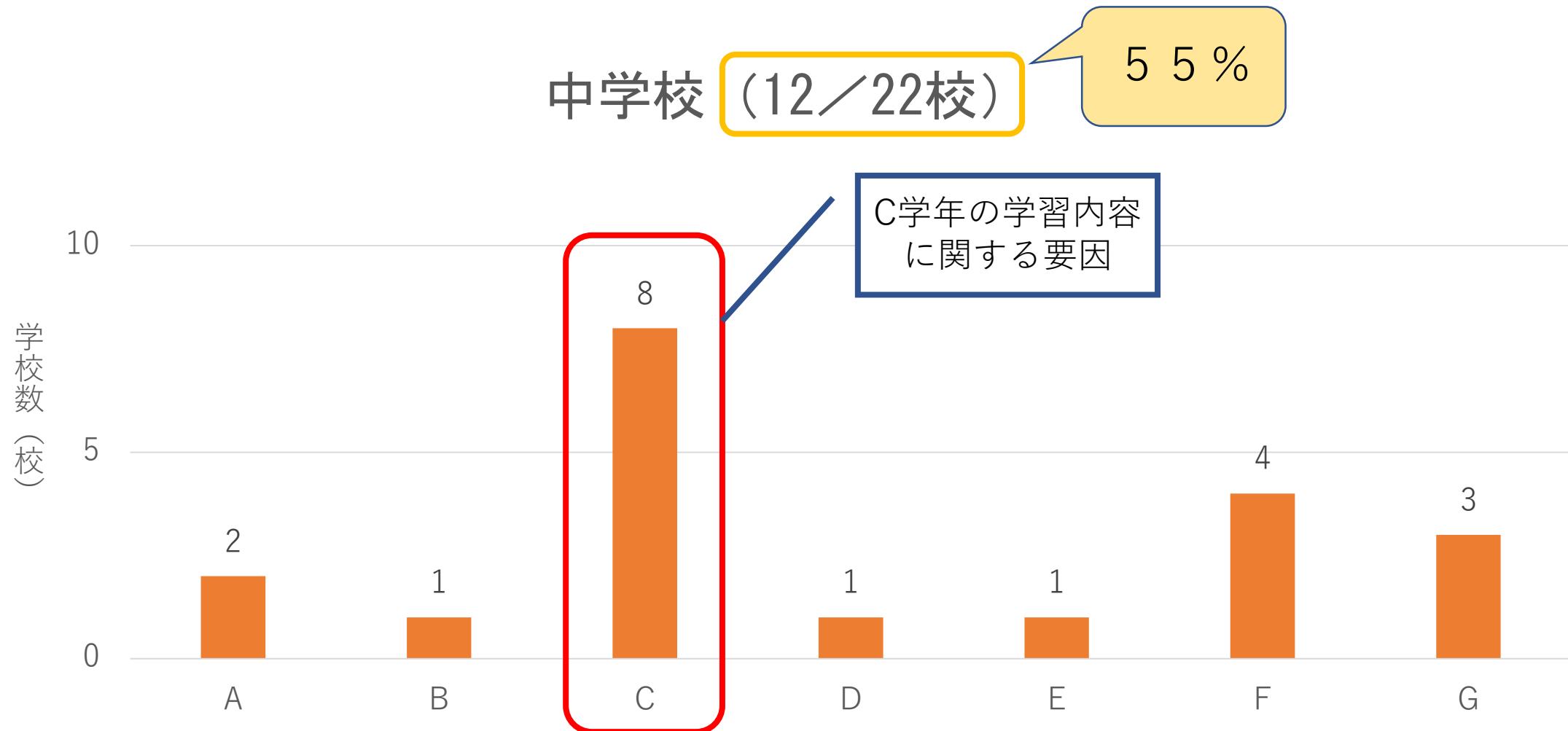
不登校増加に係る学校要因

- A. 「教員の指導や態度」に関する要因
- B. 「授業の進め方」に関する要因
- C. 「学年の学習内容」に関する要因
- D. 「授業時間や時数」に関する要因
- E. 「学校生活」に関する要因
- F. 「学校行事」に関する要因
- G. 「部活動等」に関する要因

不登校の学校要因（小学校）



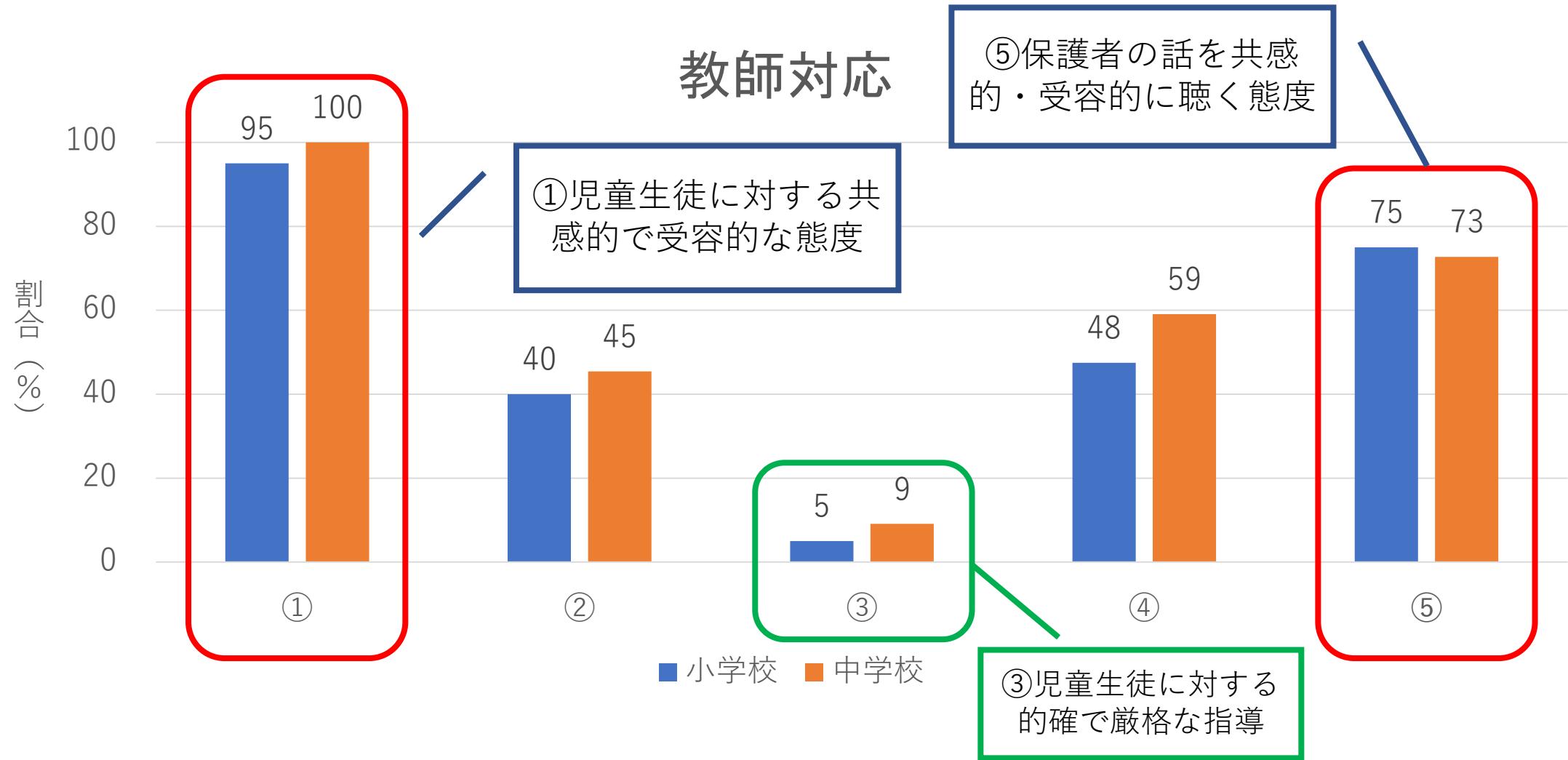
不登校の学校要因（中学校）



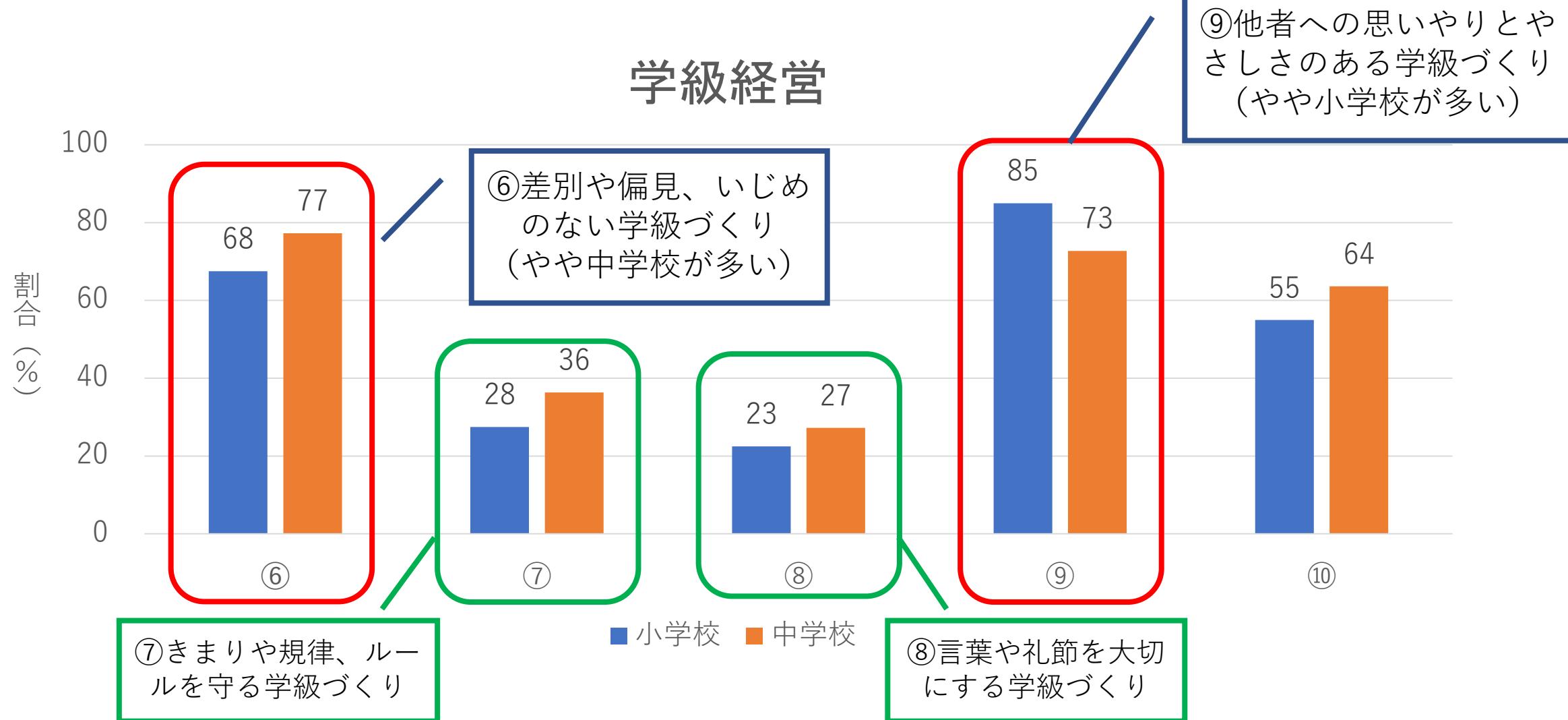
学校の不登校予防の取組

- (1) 教師対応 (指導、態度、接し方、感じ取り方等)
- (2) 学級経営 (差別・いじめ、きまり・ルール、言葉・礼節、やさしさ、個性等)
- (3) 授業改善 (分かる・できる、個別最適・協働的、ICT活用、主体性、学習規律等)
- (4) 学校運営 (いじめ防止、不登校対策方針、校内教育支援センター、アンケート、教員研修等)
- (5) 組織体制 (情報共有、ケース会議、役割分担、保健室連携、SC・SSW等)
- (6) 家庭連携 (信頼関係、電話・訪問、教育相談、関係機関、家庭ルール等)

不登校予防の取組(1) 「教師対応」

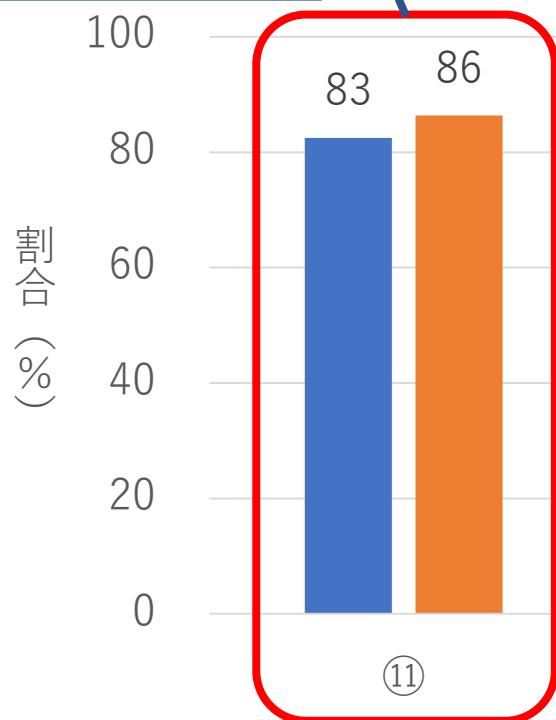


不登校予防の取組(2) 「学級経営」



不登校予防の取組(3) 「授業改善」

⑪分かる、できる、
楽しい授業づくり



授業改善

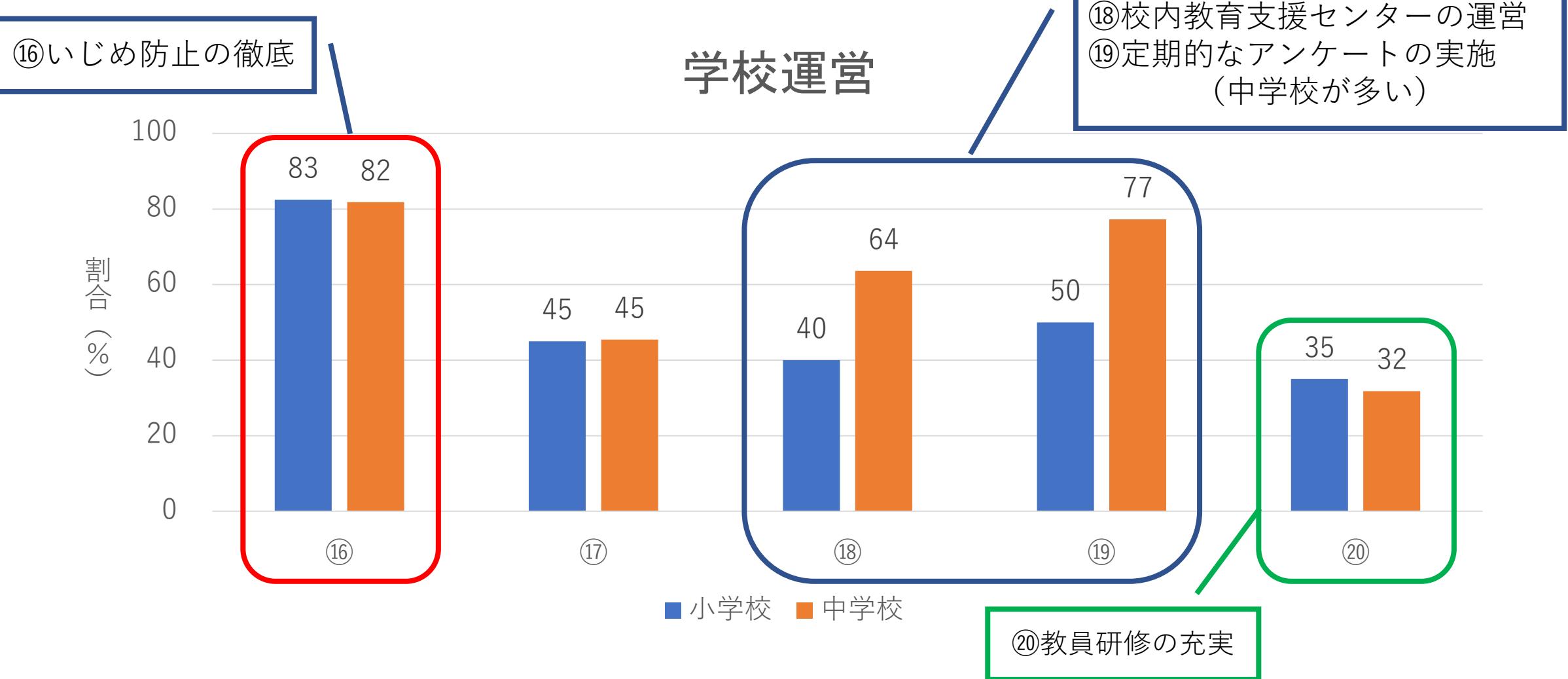
⑫個別最適で協働的な
学びのある授業づくり
(小学校が多い)

⑬ICTを積極的に活用
した授業づくり
(中学校が多い)

⑮学習規律を徹底
した授業づくり

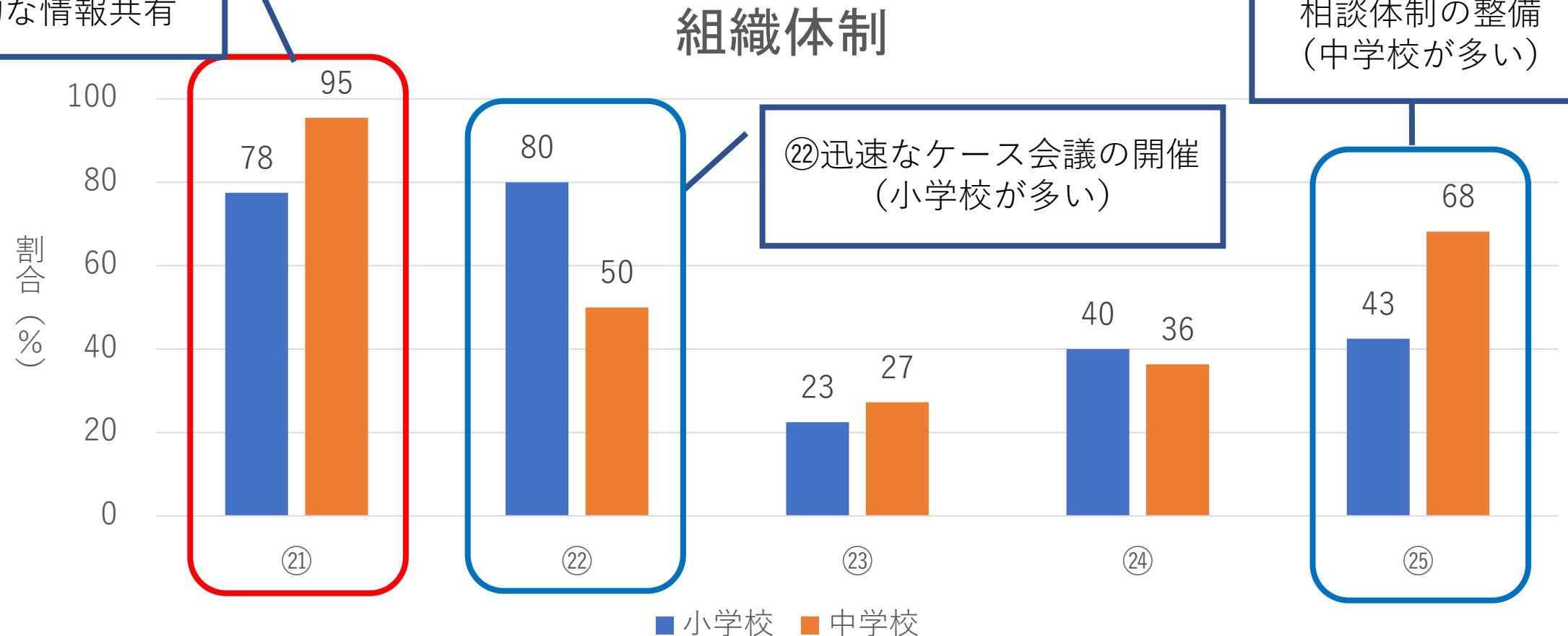
■ 小学校 ■ 中学校

不登校予防の取組(4) 「学校運営」



不登校予防の取組(5) 「組織体制」

②①会議等による定期的な情報共有

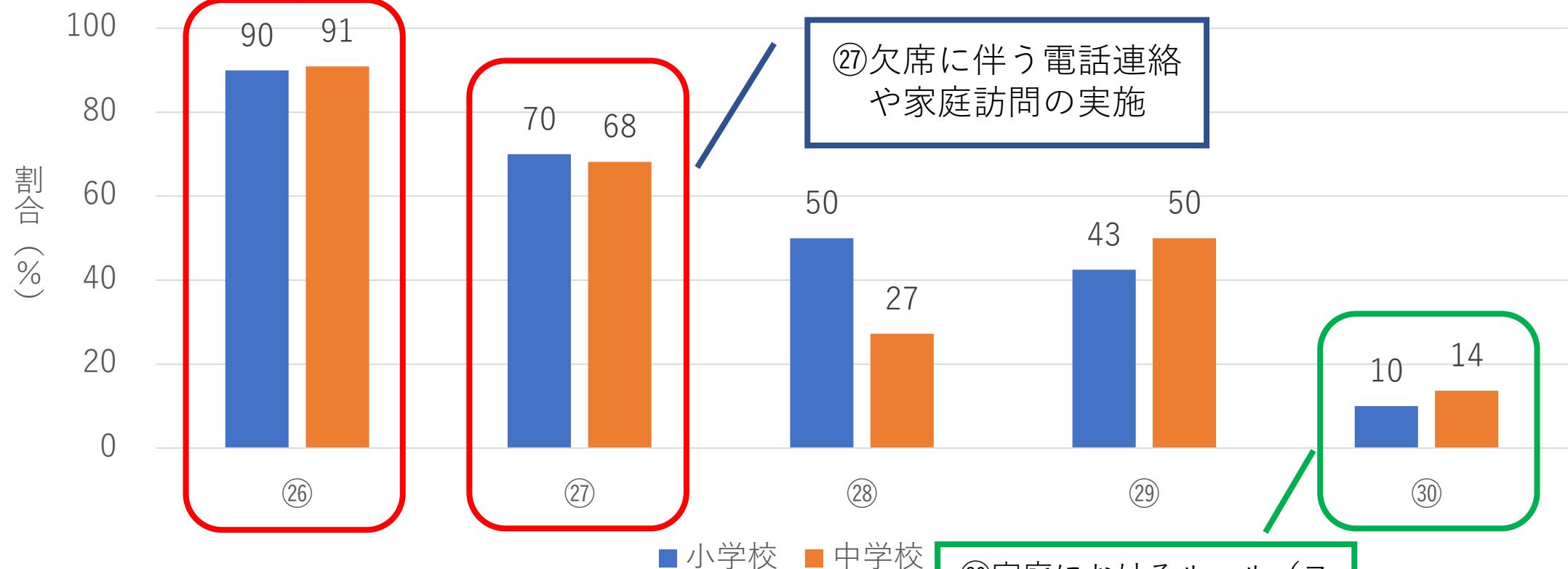


②②迅速なケース会議の開催
(小学校が多い)

②⑤SCやSSWとの相談体制の整備
(中学校が多い)

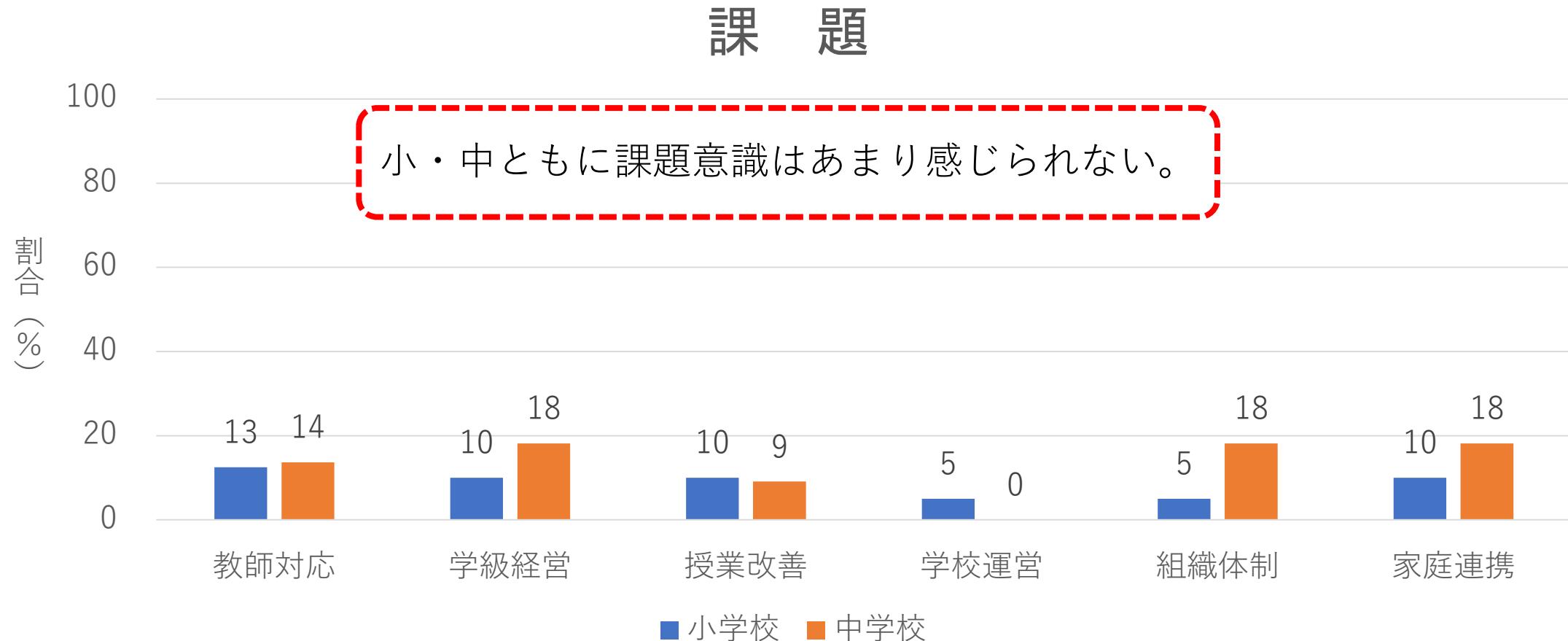
不登校予防の取組(6) 「家庭連携」

②6日常的な保護者との信頼関係の構築



③0家庭におけるルール（スマホ・ゲーム）の徹底

不登校予防の課題



不登校予防の学校体制の工夫

(1) 学年担任制（チーム担任制、複数担任制）

- 学年（学団）の複数の教員でチームを作り、一定期間ずつ交代しながら異なる学級を担任する。

(2) 教科担任制（小学校のみ）

- 担任外の専科教員や担任同士の交換授業によって、教科を分担して指導する。

(3) 単年度型学級編成

- 通常、小学校では2年ごとに中学校では2年時に行われていた学級編成を毎年実施する。

(4) 授業時間の短縮

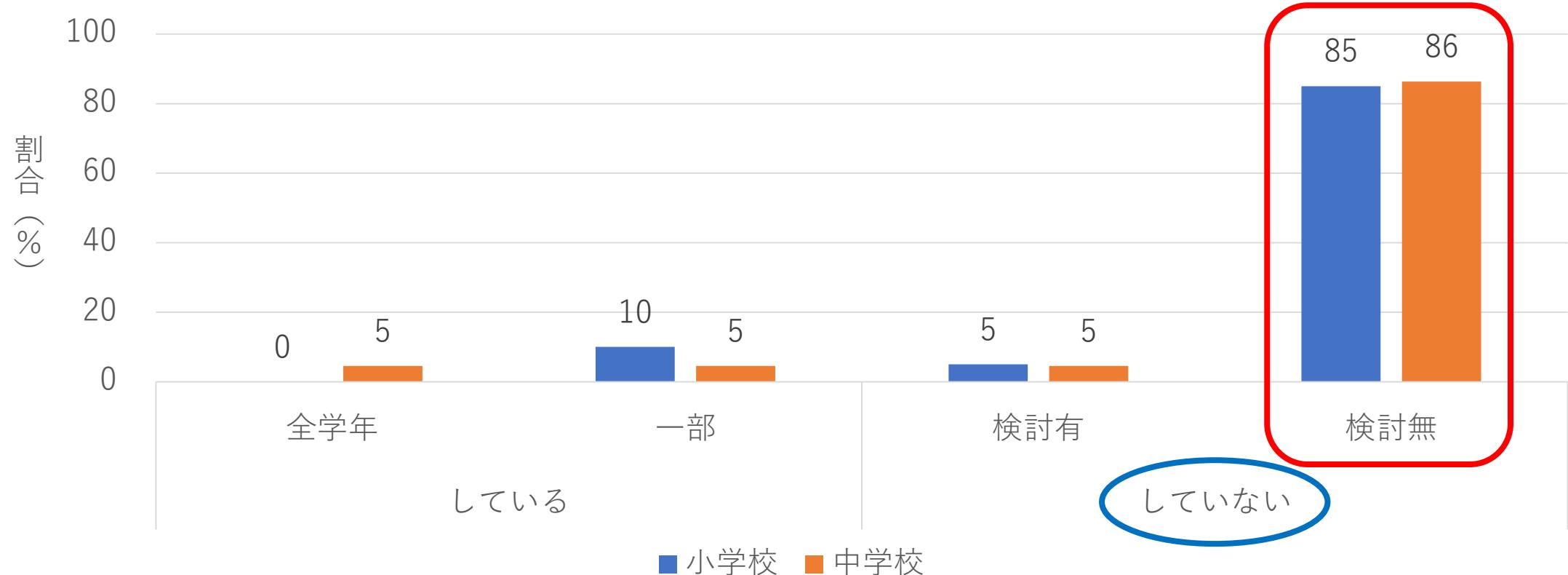
- 通常、小学校45分、中学校50分の授業時間を、40分と45分に短縮して行う。

(5) 週授業時数の削減

- 週授業時数を削減して、意図的にゆとりのある曜日をつくる。

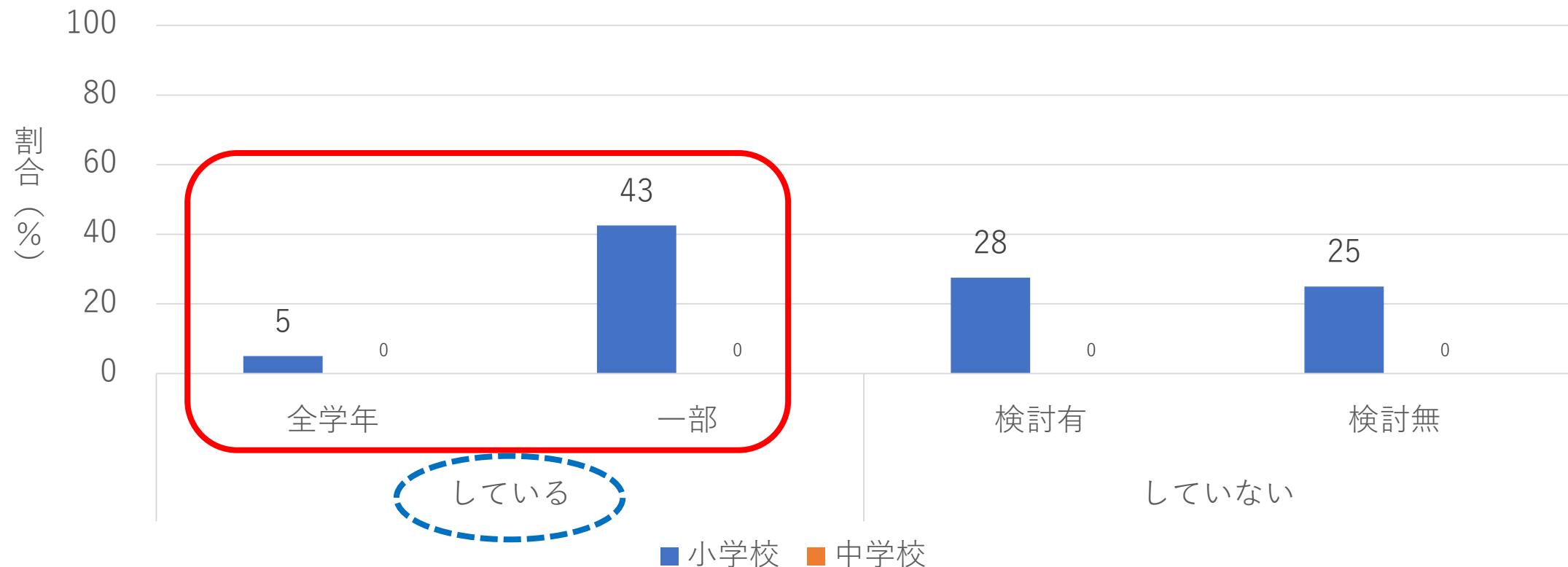
学校体制の工夫(1) 「学年担任制」

学年（チーム）担任制

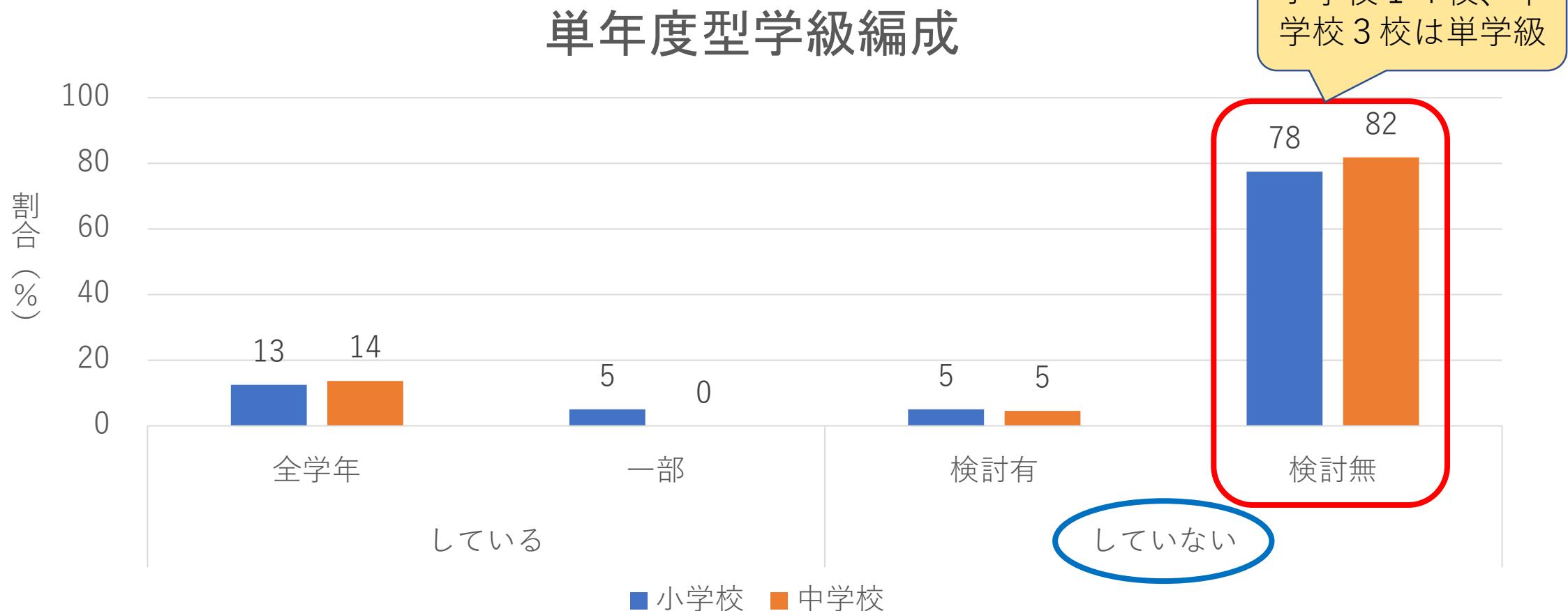


学校体制の工夫(2) 「教科担任制」

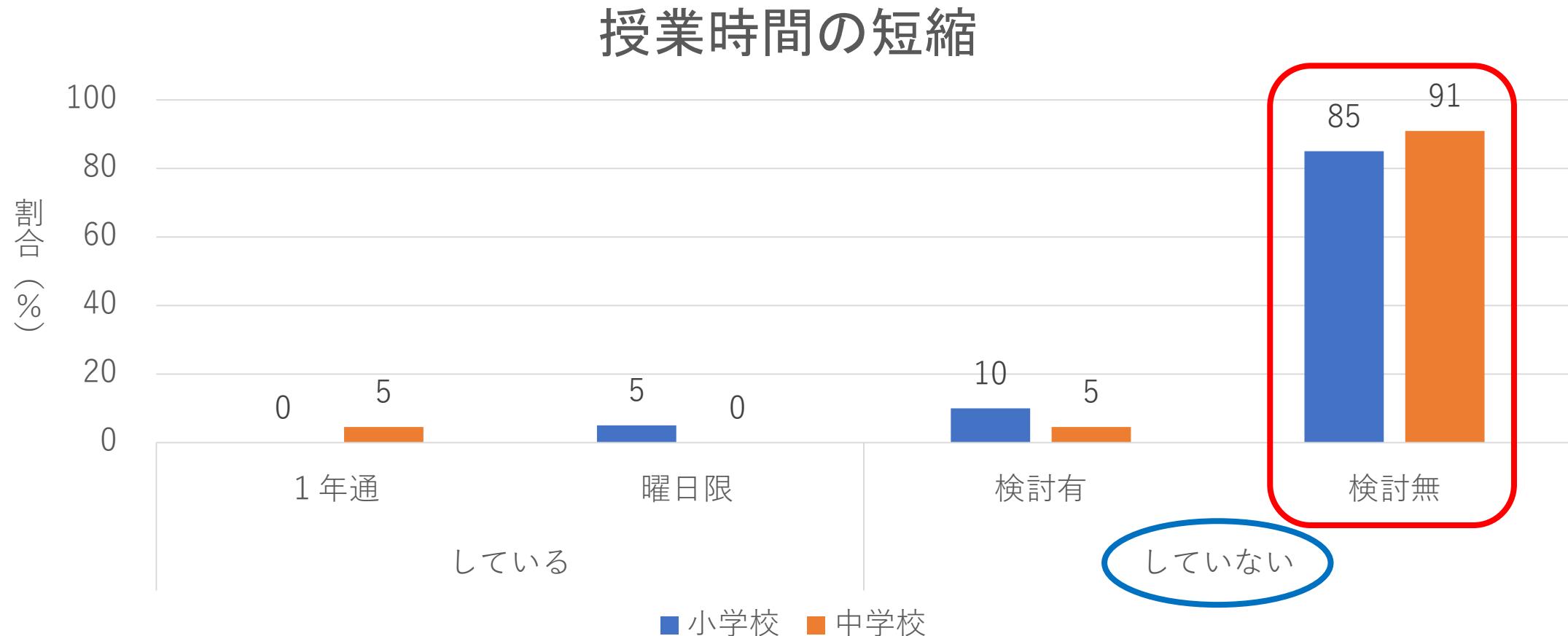
教科担任制（小学校）



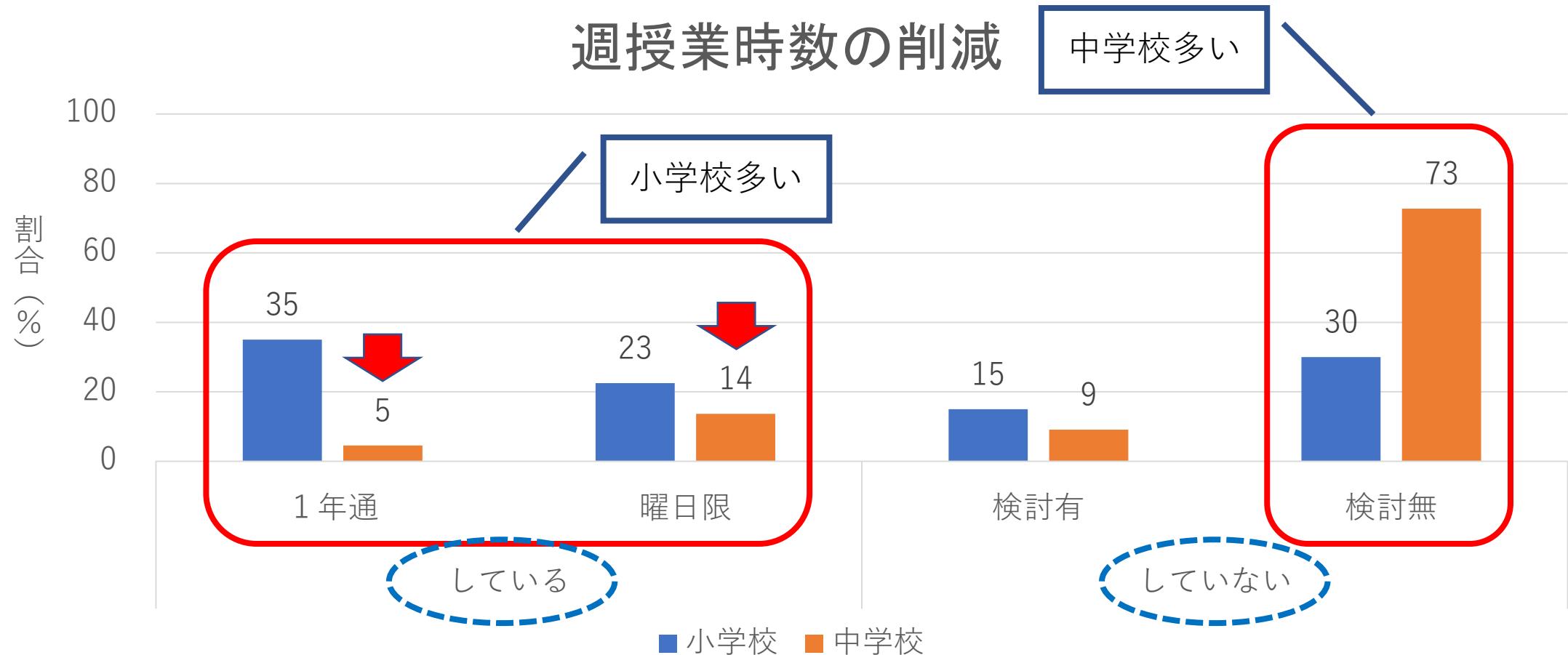
学校体制の工夫(3) 「単年度型学級編成」



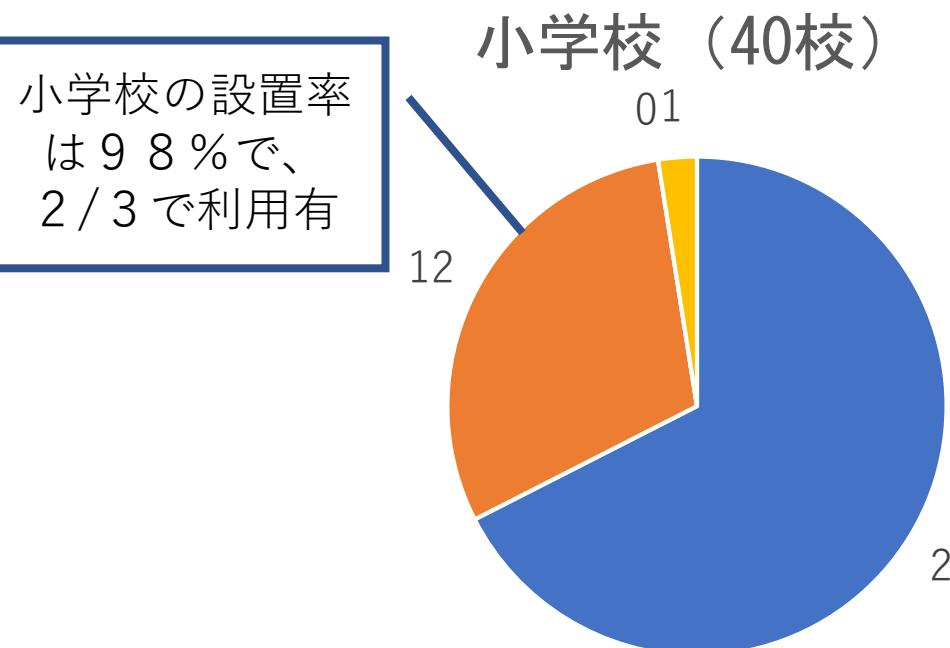
学校体制の工夫(4) 「授業時間の短縮」



学校体制の工夫(5) 「週授業時数の削減」

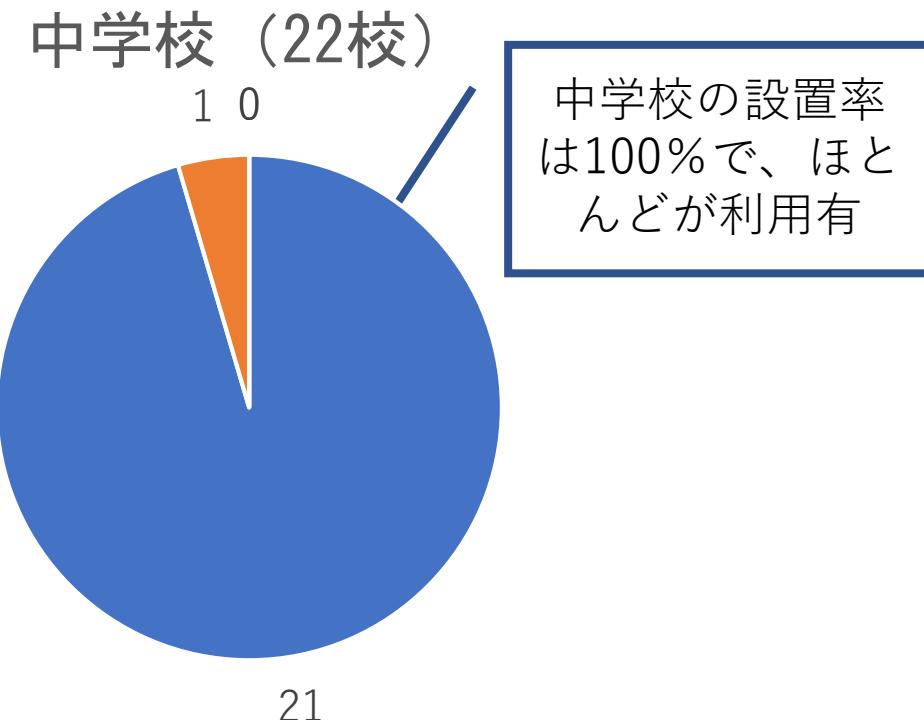


校内教育支援センターの設置（6月末現在）



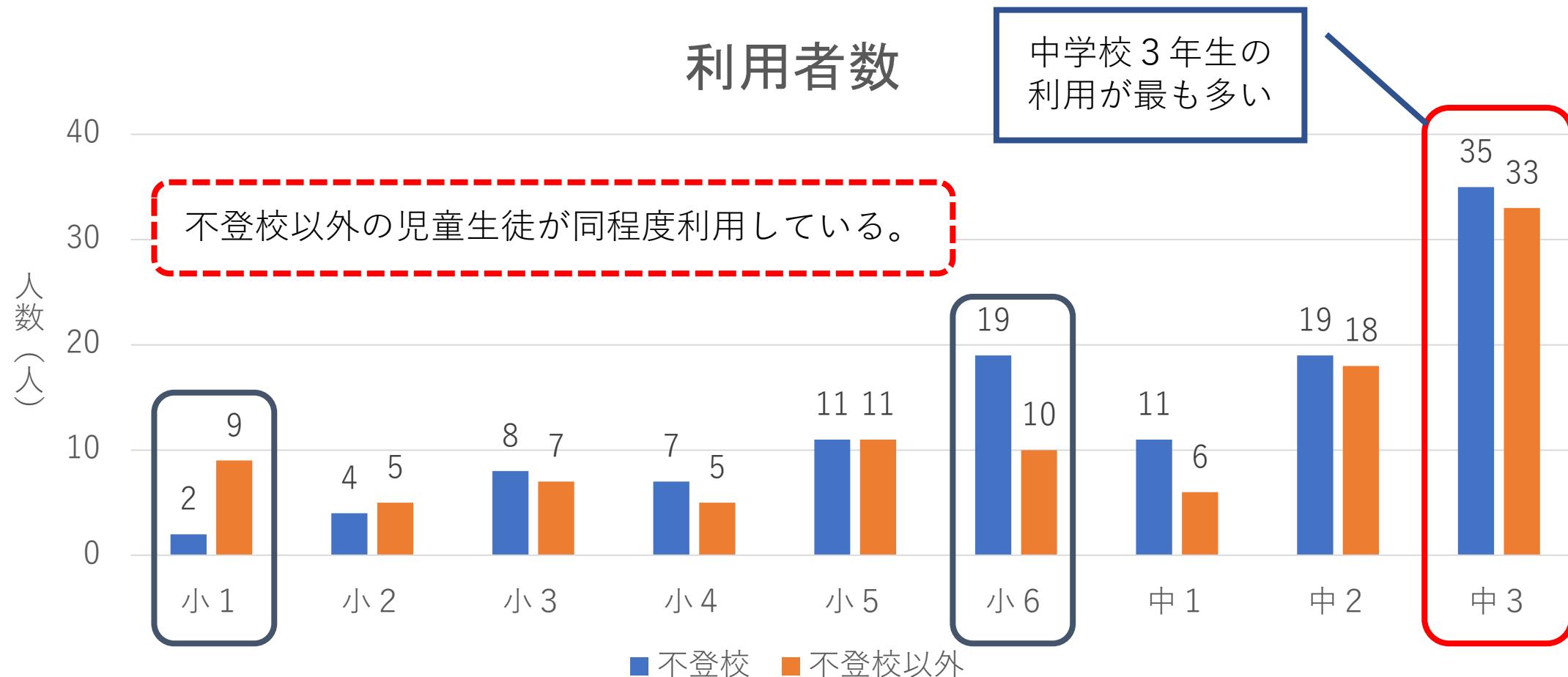
小学校の設置率
は98%で、
2/3で利用有

中学校で設置済である。
現在は、すべての小・中学校で設置済である。

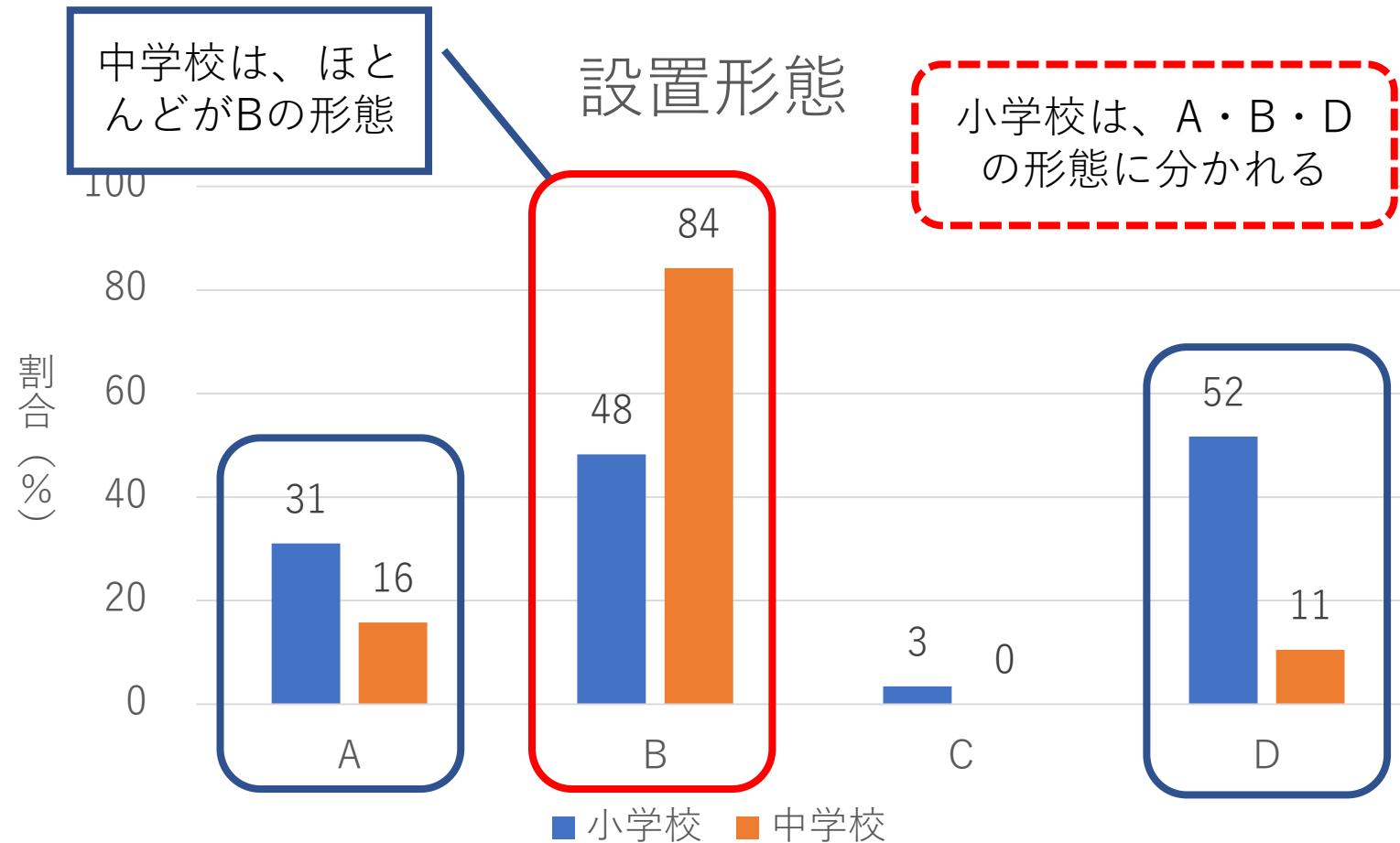


中学校の設置率
は100%で、ほと
んどが利用有

校内教育支援センターの利用者（6月末現在）



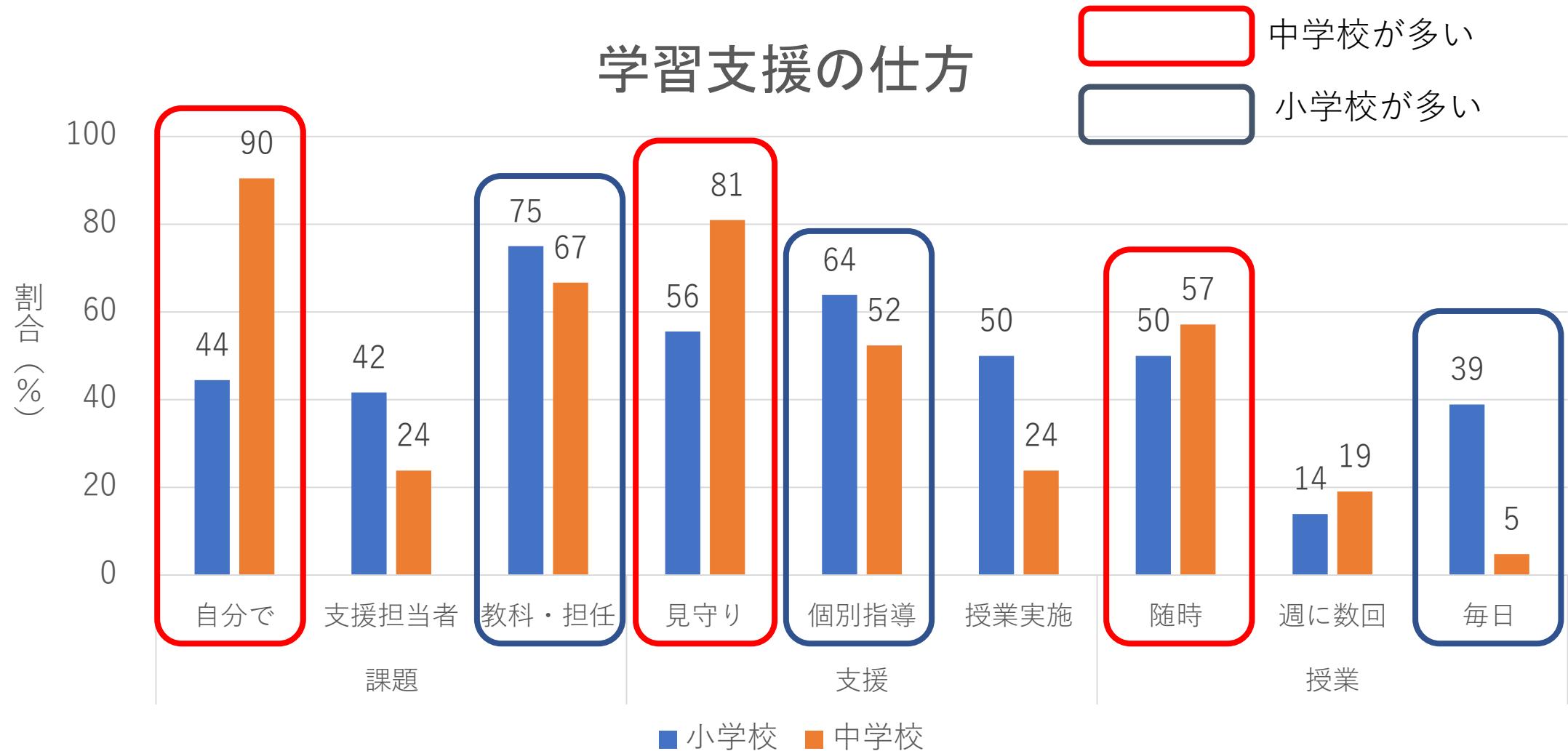
校内教育支援センターの設置形態



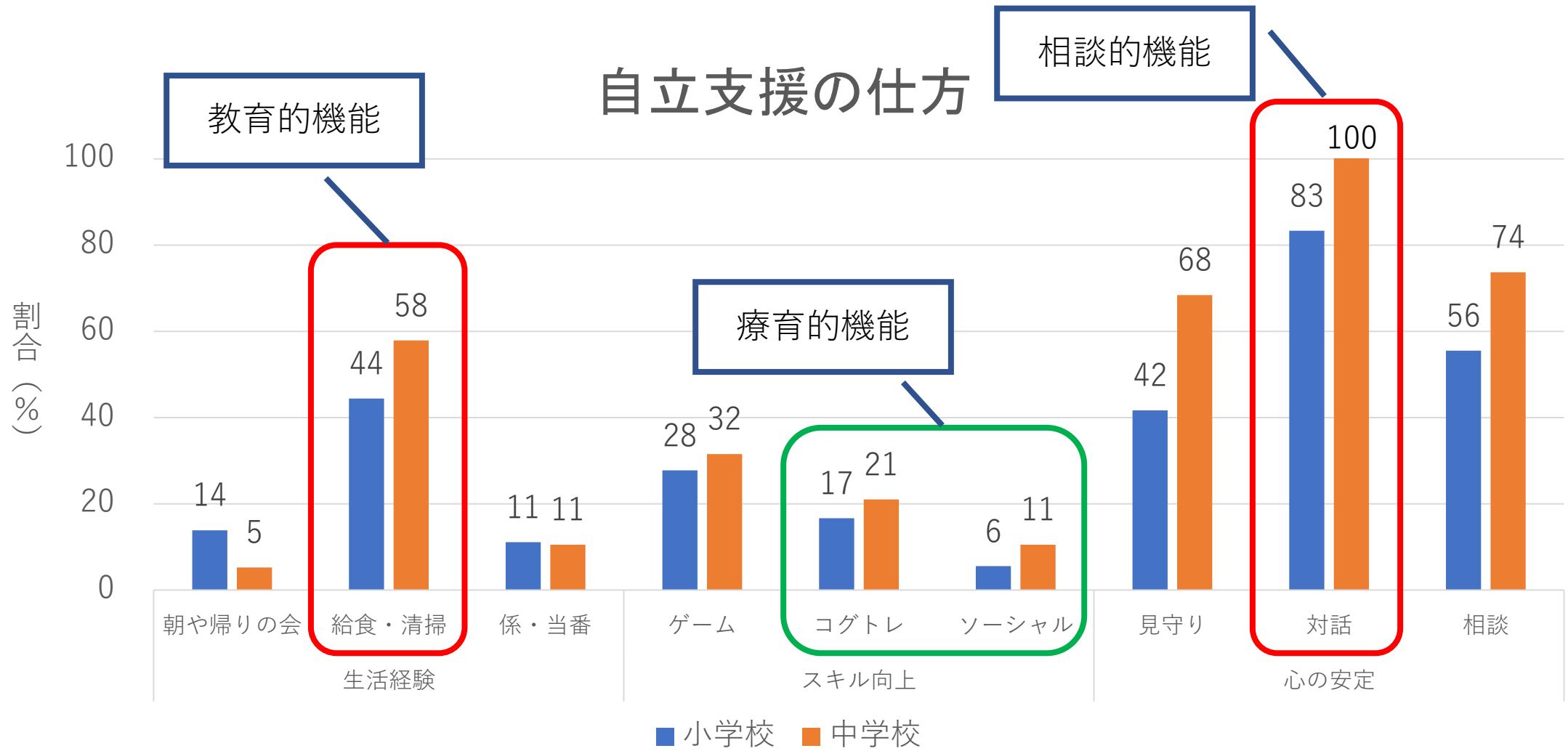
設置の形態(種類)

- A : 1つの部屋で、主に一人の担当者を中心に支援している。
- B : 1つの部屋で、複数の担当者が分担して支援している。
- C : 複数の部屋で、主に一人の担当者を中心に支援している。
- D : 複数の部屋で、複数の担当者が分担して支援している。

校内教育支援センターの学習保障

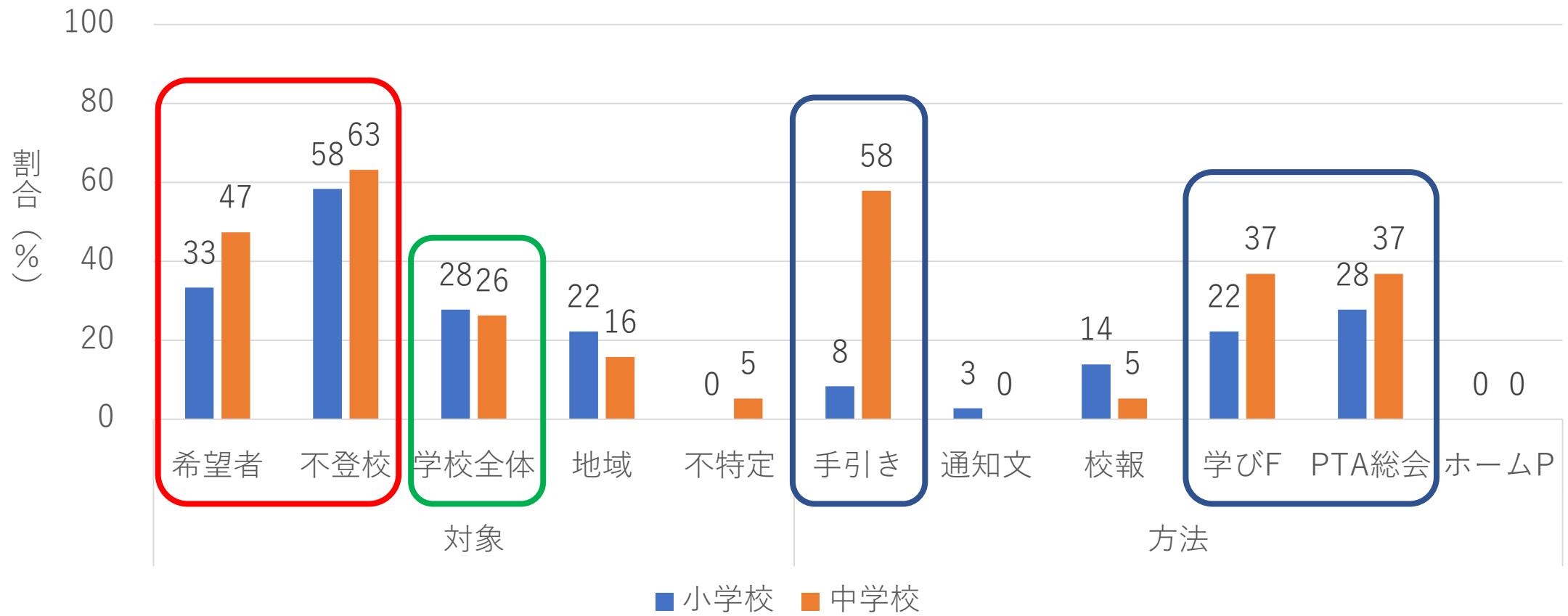


校内教育支援センターの自立活動



校内教育支援センターの周知

周知の仕方



150日以上欠席の児童生徒への効果的な支援

小学校の対応	point	中学校の対応
・継続的な電話連絡	所在確認と 関係維持	・継続的な電話連絡
・定期的な家庭訪問	適度（適切）な 登校刺激	・定期的な家庭訪問
・声掛け、会話、誘い	保護者支援と 関係者連携	・声掛け、会話、誘い
・行事への参加（見学等）	柔軟な学校対応	・進学に関する指導
・教育相談及び面談		・教育相談及び面談
・SCやSSWとの連携		・ひろばモリーオとの連携
・多様な登校の仕方		・校内教育支援センターの利用

中学生アンケート調査の結果

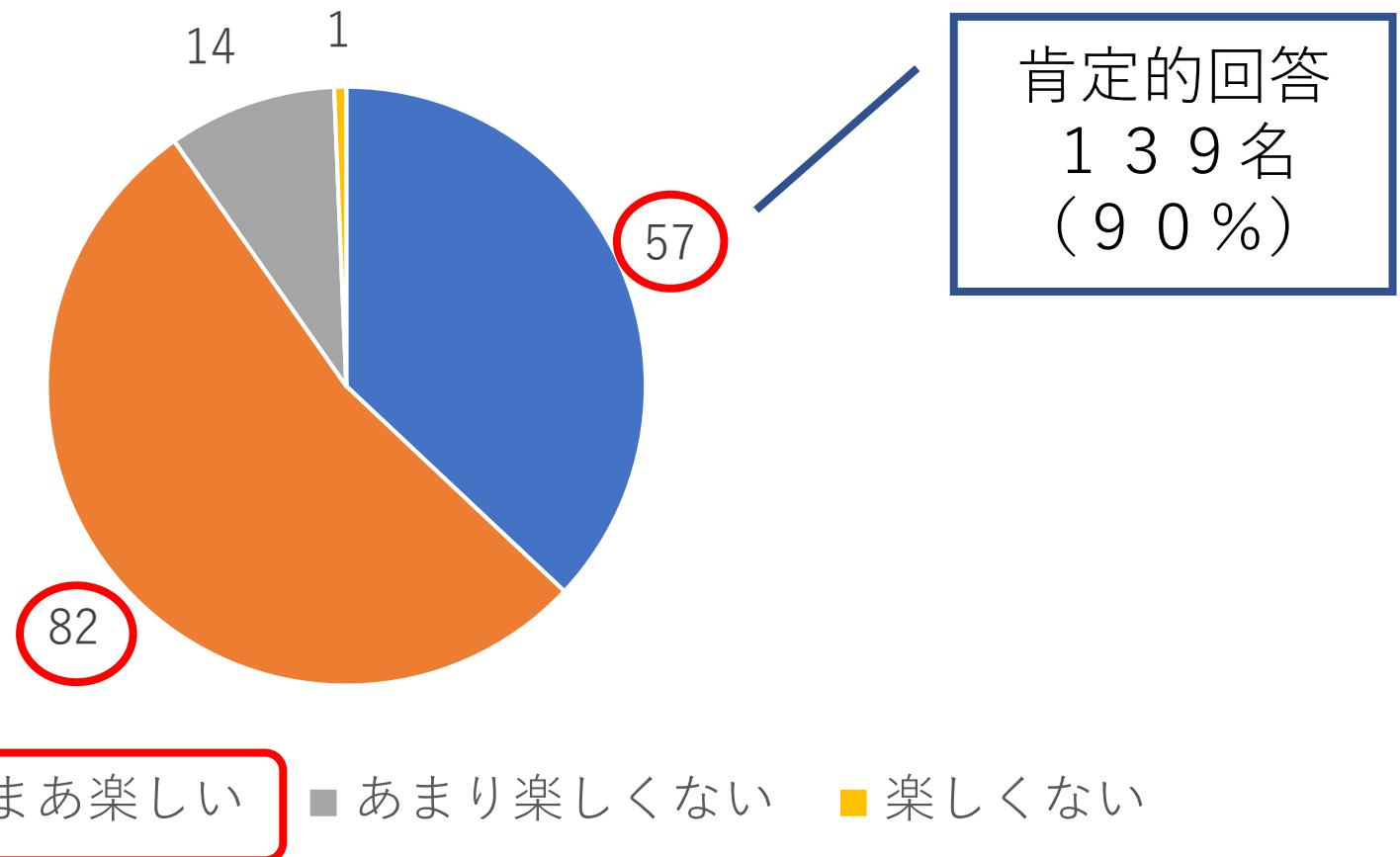
- ・内容…「学校生活に関する意識」について
- ・対象…市内中学校 1 年生 154 名（抽出）
- ・時期…10月
- ・方法…質問紙

アンケート内容

- ・学校生活は楽しいですか。
- ・特に学校生活のどんなところが楽しい（楽しくない）ですか。
- ・学校生活の中に自分の好きなことや得意なことはありますか。
- ・学校生活で、自分がやりたくないこと（苦手なことや不得意なことなど）もがんばっていますか。
- ・学校生活で困っていること（心配や悩み事）はありますか。
- ・あなたには何か困ったときに相談できる人はいますか。
- ・相談できる人とは誰ですか。
- ・あなたは、小学校から今までに、学校に行きたくないと思ったことはありますか。（病気やけがの場合は除きます）
- ・行きたくないと思った理由は何ですか。
- ・それでも休まずに学校に来られたのは、どんな考え方や支えがあったからだと思いますか。

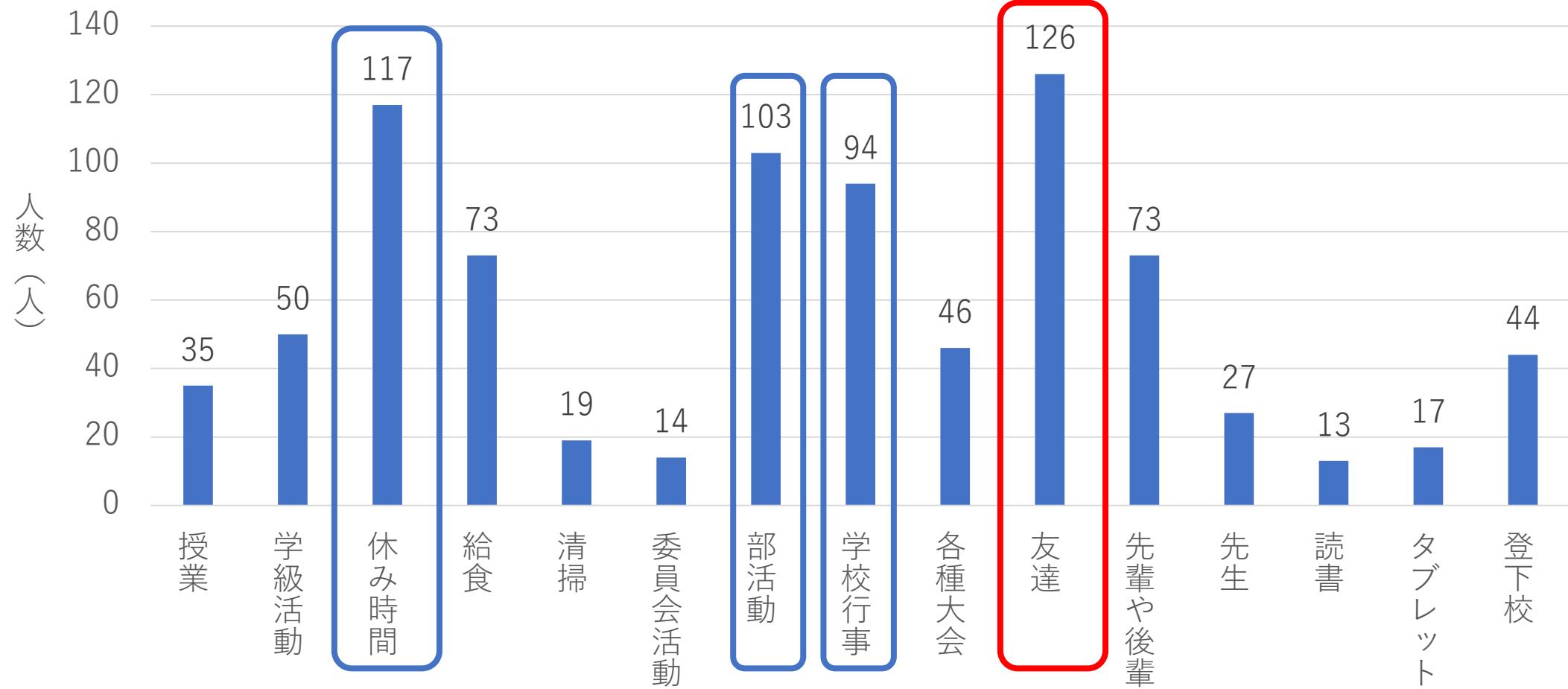
学校生活は楽しいか

学校生活の楽しさ (154名)

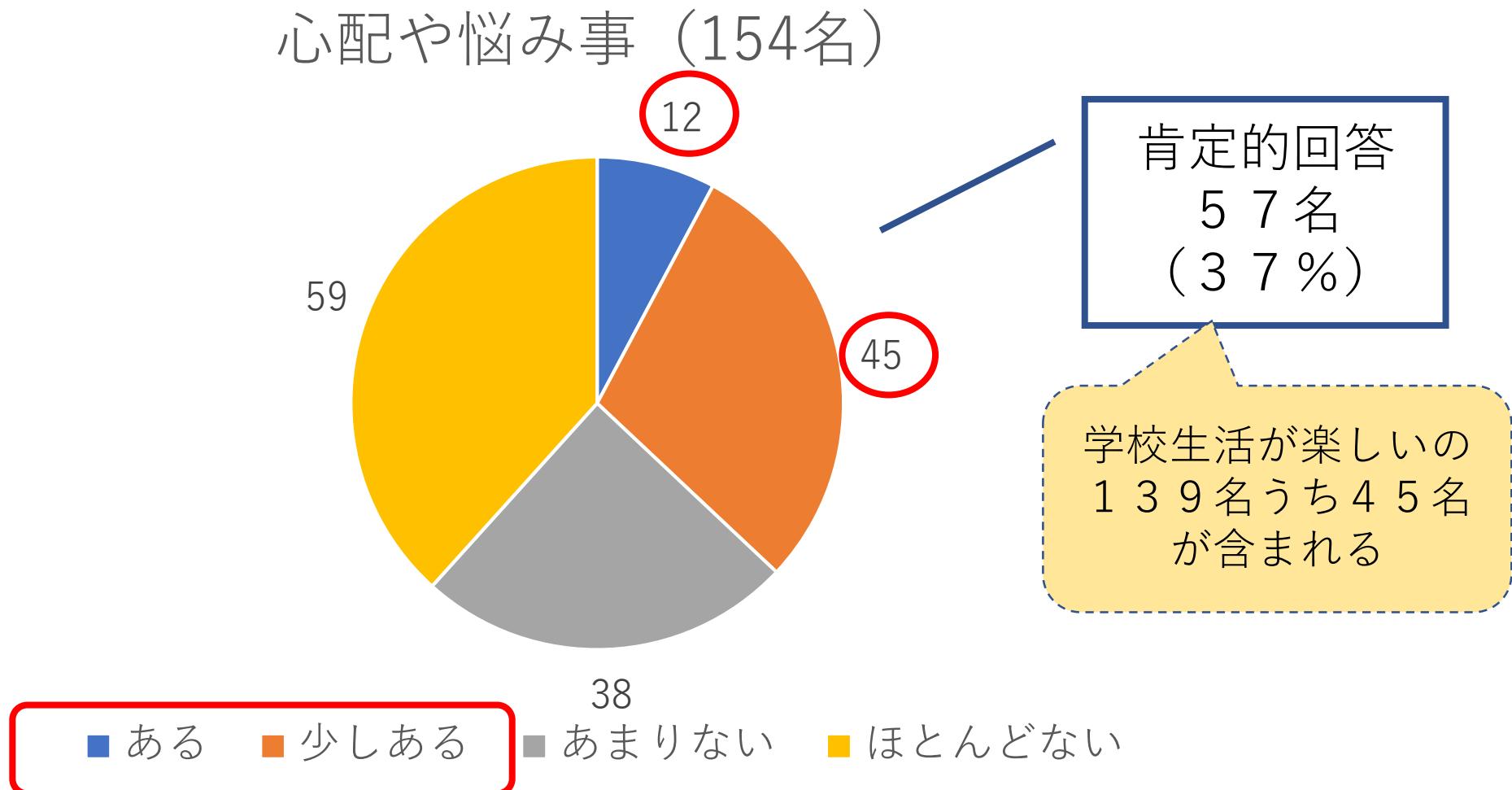


学校生活の楽しいところはどこか

学校生活の楽しいところ(139／154名)

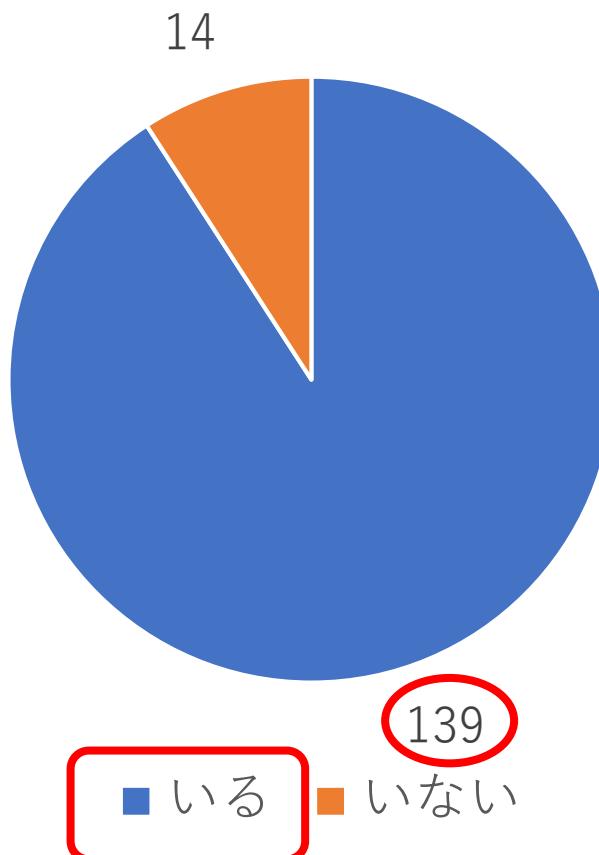


学校生活で困っていることはあるか



困ったときに相談できる人はいるか

相談できる人（154名）

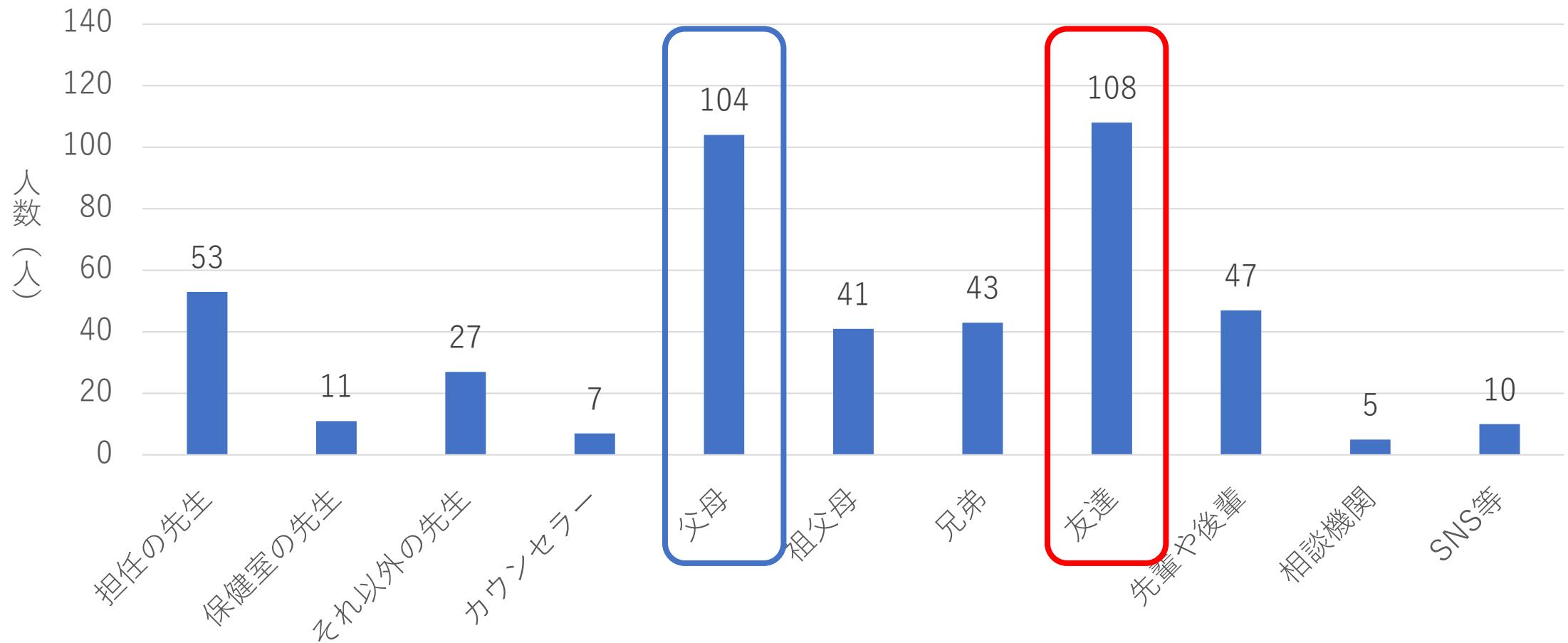


肯定的回答
139名
(90%)

学校生活が楽しい
と同じ139名

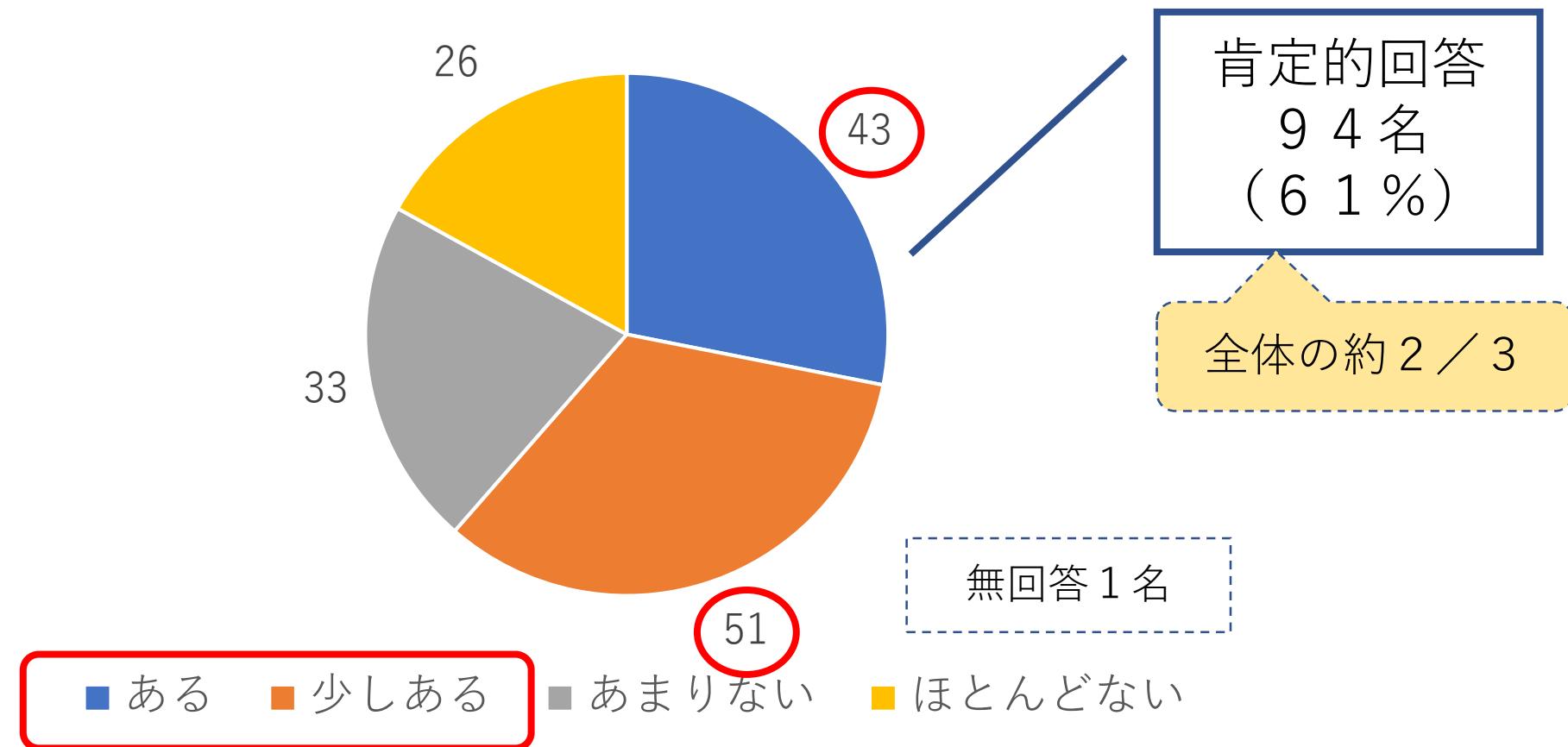
相談できる人とは誰か

相談できる相手 (139／154名)



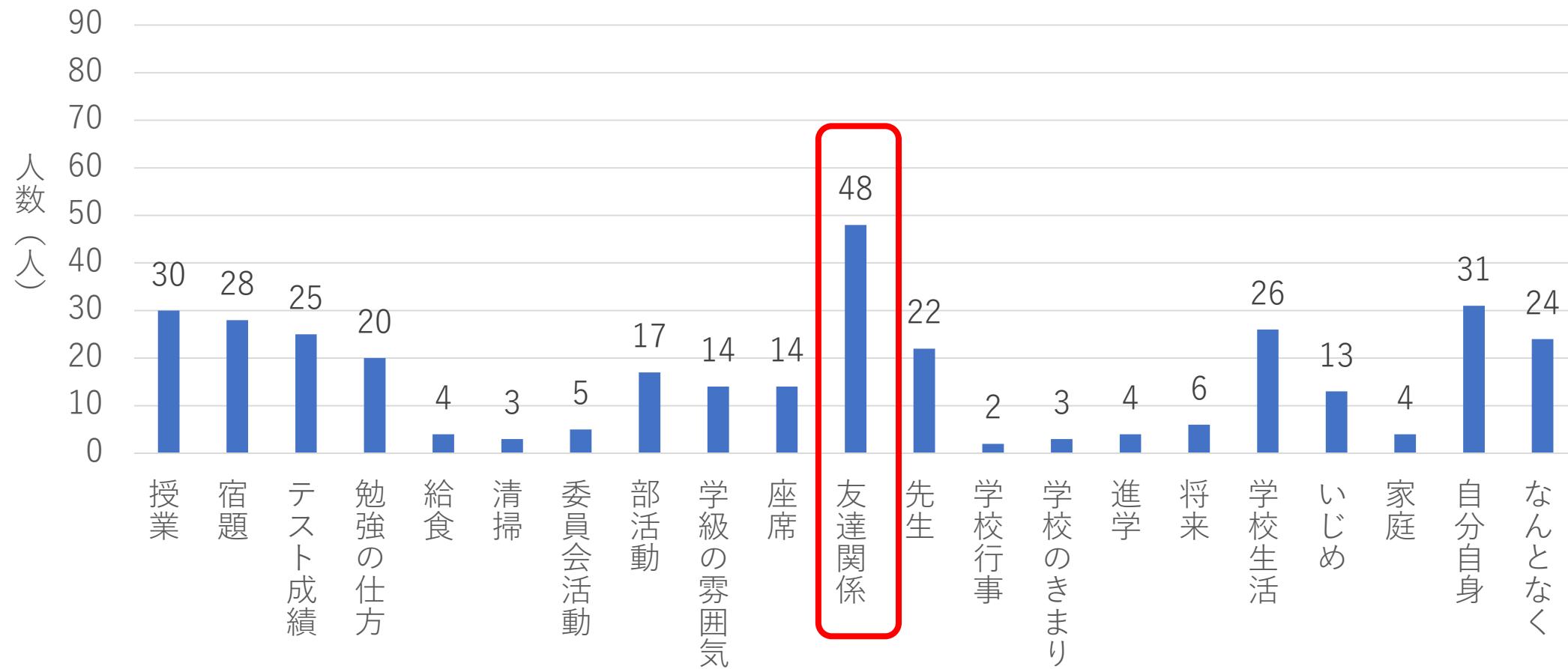
学校に行きたくないと思ったことはあるか

学校に行きたくないと思ったこと (153名)



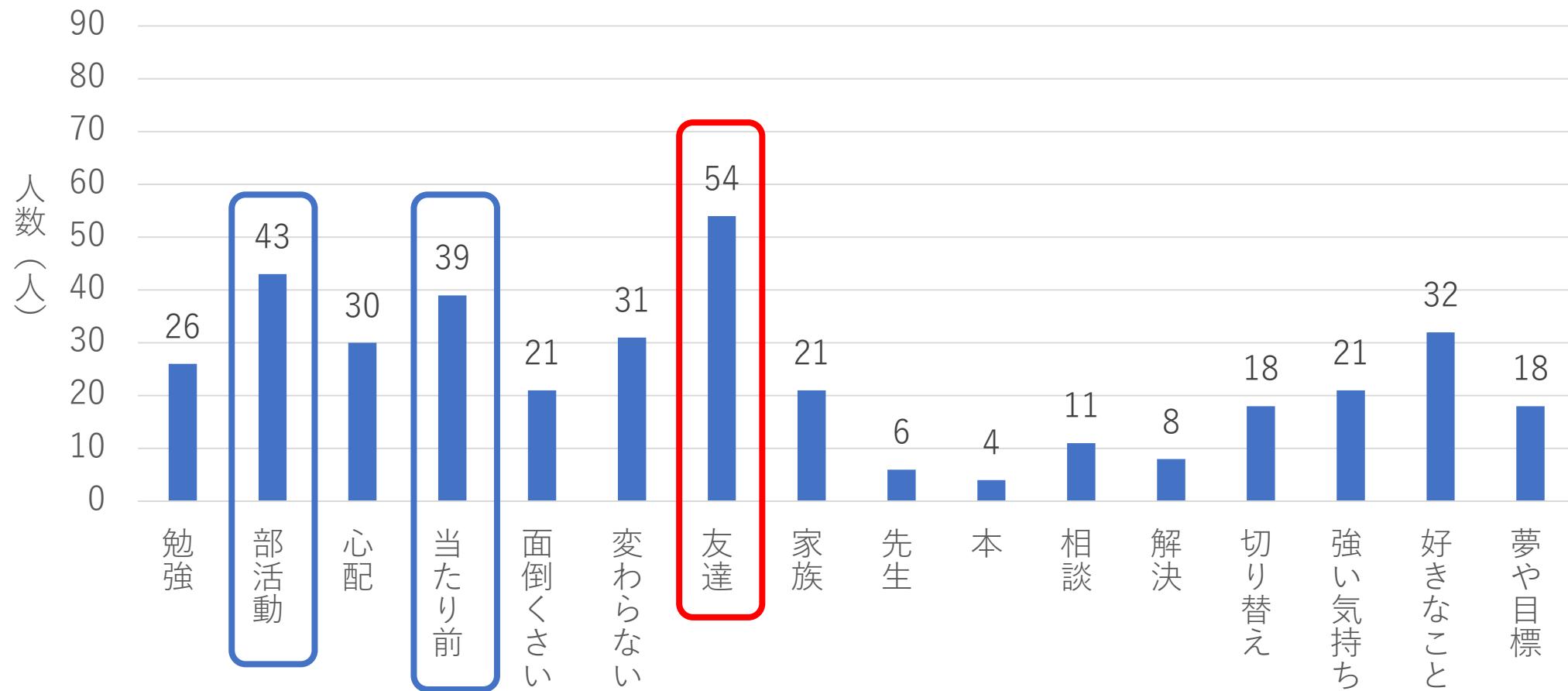
学校に行きたくないと思った理由は何か

学校に行きたくない理由 (94／154名)

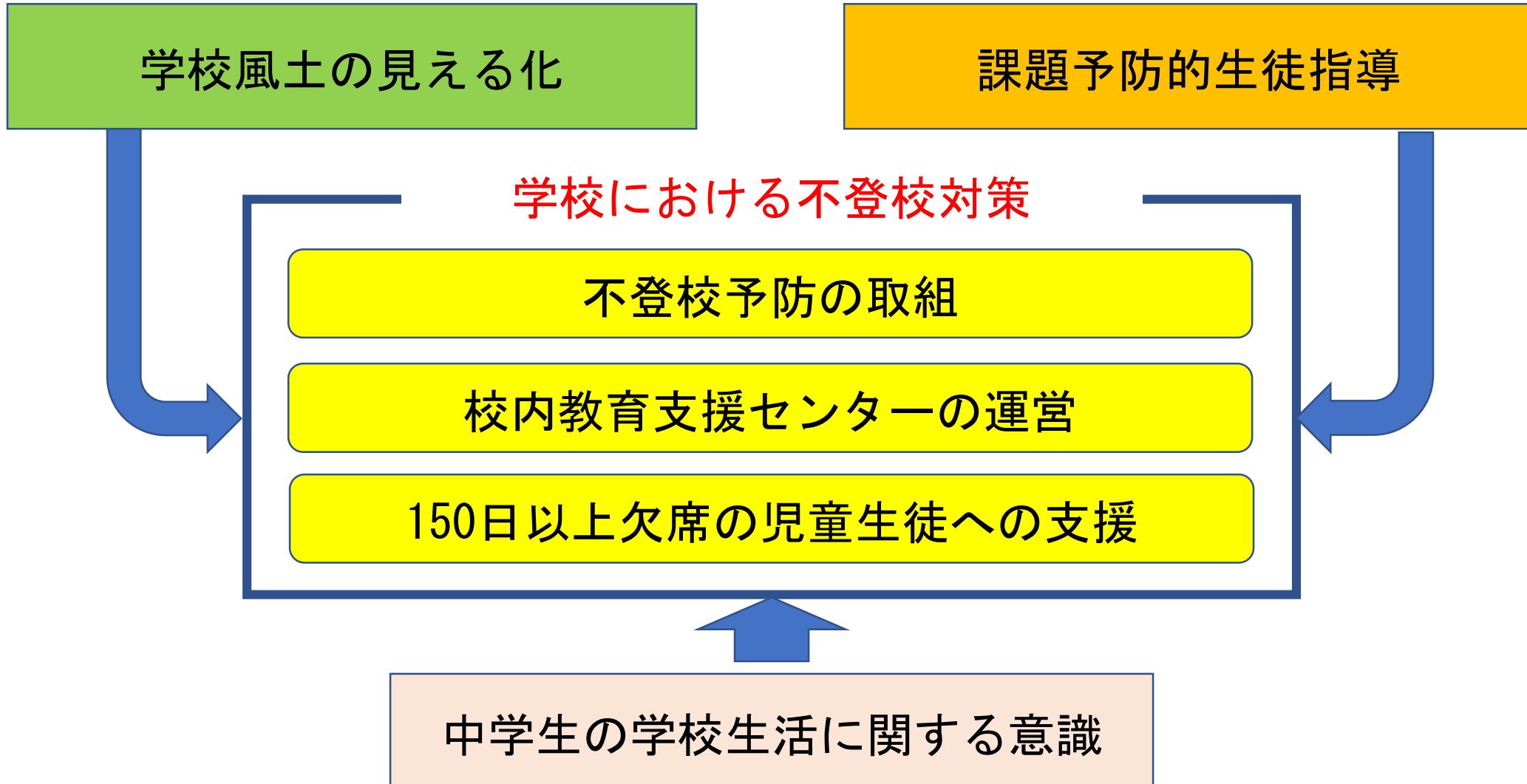


学校に来ることができたのはどうしてか

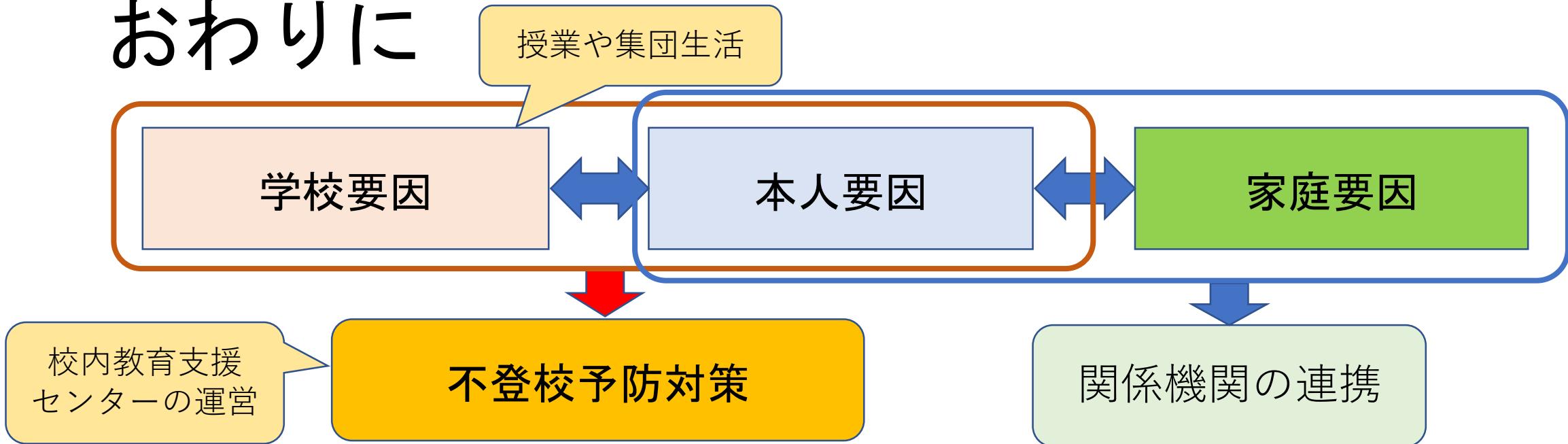
学校に来ることができた理由 (94／154名)



まとめ



終わりに



不登校対策

社会や家庭の考え方や価値観の変化に対応した学校教育の工夫・改善

児童生徒を主語にした学校・学級・授業づくり

ご清聴ありがとうございました。

アンケートや訪問等のご協力に感謝いたします。
今回の研究が不登校対策の一助になれば幸いです。